

『ナナメウシロのカム・バネルラ』 成井豊

登場人物

花巻みねり(インストラクター39)

小山田登(編集者37)

小山田優(登の弟33)／成島雄太(演出家)

小山田澄子(登の祖母88)／タケチ(高校生)

宮守弓奈(登の同僚33)／クサカベ(高校生)

岩根麻衣子(登の上司43)／あきの(みねりの姉39)

上郷敏行(ゆかりの義兄52)

上郷龍平(ゆかりの甥、大学1年22)／ヤマノウエ(時間管理局員)

上郷穂香(ゆかりの姪、高校3年18)／オオツ(高校生)

平倉誠二郎(作家39)

一〇一五年八月一七日夕、東京都新宿区西新宿のマンションの平倉誠二郎の自宅。誠二郎に案内されて、八人の客（花巻みねり・小山田優・小山田澄子・岩根麻衣子・宮守弓奈・上郷敏行・上郷龍平・上郷穂香）が入ってくる。それぞれが椅子やソファーに座る。

誠二郎　えー、お声がけした皆さん全員揃つたようですので、そろそろ始めたいと思
います。本日はお忙しい中、足をお運びくださいまして、誠にありがとうございます。
ざいます。今日初めてお会いする方もいらっしゃるので、改めてご挨拶させて
いただきます。作家の平倉誠二郎です。よろしくお願いします。

誠二郎が礼をする。麻衣子が拍手する。つづれて、他の七人も拍手する。

誠二郎　ためらいがちな拍手、ありがとうございます。ちなみに、僕の本を読んだ二
とがあるという方は？

みねり・麻衣子が手を挙げる。

麻衣子　（周囲を見回して）え？ 嘘、私と花巻さんだけ？ そんなはずないでしょ。宮
守さんも読んでるよね？

弓奈

麻衣子

もちろんです。でも、私たちは本を出す側の人間だから。
それはそうだけど、他社から出た本は、私たちだって読む側でしょ？（誠二郎に）私は平倉さんの本は全部読みます。小説もエッセイ集も対談も。（手を挙げて）私もです。

弓奈

誠二郎

ありがとうございます。（他の五人に）他は皆さん、ゼロですか。予想はしてたけど、寂しいです。

麻衣子

信じられない。（他の五人に）平倉さんの小説は、毎年、本屋大賞にノミネートされてるんですよ。あと、直木賞で一回、山本賞でも一回、ノミネートされます。

穂香

麻衣子

ノミネートされるだけでも名誉なことなんです。
まあまあ。僕が言つても負け惜しみに聞こえるかもしれないけど、作家の価値はどれだけ賞を獲つたかじやありません。

弓奈

そうですよ。平倉さんの小説はたくさんの人々に読まれてるし、テレビドラマになつたものもあります。

優

澄子

俺、見てましたよ。『嵐になるまで待つてね』。（澄子に）ばあちゃんも見てたよな？

あれはイマイチだったね。

そりゃ？俺は結構楽しめたけど。

でも、視聴率がひどくて、八話で打ち切りになりましたよ。

穂香、余計なことは言わなくていい。

私は事実を言つただけ。実際、ネットの評判も最悪だつたし。

穂香。

敏行

穂香

敏行

澄子

優

誠二郎

えー、自己紹介から始めて、雰囲気を和らげるつもりだったんですが、かえつてギスギスしてしまいましたね。僕の作戦ミスです。「めんなさい。では、氣を取り直して、話を本題に戻します。今日、皆さんにお集まりいただいたのは、事前にお知らせした通り、僕がこれから書こうと思つてゐる新作についてです。

優

誠二郎

兄の「」とを書くんですね？

そうです。あなたのお兄さんの、小山田登くんが主人公です。僕が彼と初めて会つたのは今から十二年前。僕が作家としてデビューしてすぐでした。が、僕が書きたいのは彼の人生のほんの一部。事故の後の四日間です。

弓奈

誠二郎

（他の五人に）具体的には、先週の月曜から木曜までです。

他の五人に）紹介が遅くなりましたが、こちらは徳丸書店の宮守さん。今度の新作の編集を担当していただくことになつてます。

弓奈

麻衣子

（他の五人に）宮守弓奈です。よろしくお願ひします。

（他の五人に）宮守が所属する文芸部で部長を務めております、岩根麻衣子です。十二年前の平倉さんは僕にとって恩人と言つてもいい人で、その後も

（他の五人に）岩根さんは僕にとっては恩人と言つてもいい人で、その後もずっとお世話になつてきました。で、先日、新作の構想をお話ししたところ、

事実に基づいて書くなら、関係者に承諾を取つてからの方がいいとアドバイスされまして。で、こうして皆さんにお集まりいただいたわけです。

そういうことでしたら、我々の「」はどうかお構いなく。小山田さんにはみねりが大変迷惑をおかけしましたし、とやかく口出しできる立場じゃありません。

誠二郎

でも、あなたは小説の中に登場するんですよ。

敏行

敏行

誠二郎

は？

あなたは先週の月曜から木曜の間に、小山田くんに会いましたよね？だから、登場させないわけには行かないんです。

敏行

誠二郎

ちよつと待つてください。僕は小山田さんには会つてませんよ。

いいえ、あなたには自覚がないでしようが、間違いなく会つてます。そ�だ

みねり

みねり

みねりちゃん、あの話、やっぱり本気だったの？

うん。お義兄さんには信じられないだろうけど。

私は信じるよ。（龍平に）お兄ちゃんも信じるよね？

（頷く）

（みねりに）ちなみに、俺は会つてるんですかね？

はい。

ばあちゃんも？

私は気付いてたけどね。

嘘つけ。

（他の五人に）私と留守も当然会つてます。まあ、花巻さんの話が事実だったとしたなら、という前提でですが。

私は事実だと思います。花巻さんは嘘をつく理由がないですから。

嘘じゃなくて、そう思い込んでるだけだとしたら？

その可能性がない」ともないけど、僕はあくまでも、花巻さんの話を事実と

して書きます。だって、その方がおもしろいから。

まあ、小説っていうのはそういうものですね。

麻衣子

穂香

麻衣子

優澄子

優優

みねり

穂香

龍平

優優

みねり

敏行

誠二郎

誠二郎

(他の五人に)そういうわけで、僕を含めて、三三にいる九人全員が小山田くんに会つてゐる。だから、今日、ここに集まつて、いただいたんです。皆さんを僕の小説に登場させる」とを承諾して、いただくために」

敏行

申し訳ないけど、今すぐは無理です。私には小山田さんと会つた記憶がない。だから、何を書かれるか、全く想像がつかない。その気持ちはよくわかります。おそらく、他の皆さんも同じ」とを感じいらっしゃるだらうと思います。(他の五人に)そうですよね?

五人が頷く。

誠二郎 そこで、口頭で申し訳ないんですが、今から皆さんに新作の構想を説明します。それを聞いた上で、判断していただけないでしょうか。

優 良いですよ。まあ、俺としては、答えは最初からイエスに決まつてます。兄貴を主人公にした小説を書いてもらえるんだから、文句なんかない。むしろ

できる限り協力しますよ。

敏行 みねりちゃんもそれでいいの?

穂香 お義兄さん、違うの。言い出しつづけは私なの。私が最初に平倉くんに話をし
て、そうしたら平倉くんが小説にしたいって言い出して、

穂香 で、みねりさんも賛成したのね?

(頷いて)あの人のこと、忘れちゃいけないと思つたから。

わかつた。(誠二郎に)じゃ、早速聞かせてください。新作の構想を。了解しました。

誠二郎

誠二郎がノートを開く。

誠二郎 皆さん、「存知の通り、小山田くんの事故が起きたのは先々週の金曜日。時間は夕方の五時過ぎでした。場所は調布市の交差点。花巻さんが横断歩道を渡つていると、いきなりと大型トラックが左折してきた。花巻さんはタイヤが軋む音を聞いて、その場に立ち竦んだ。「ぶつかる!」と思つた瞬間、後ろから歩いてきた小山田くんが、花巻さんを突き飛ばした。

九人の人々が歩き出す。いつの間にか、みねりの後ろを小山田登が歩いている。みねりが横断歩道を渡る。大型トラックが左折してくる。みねりに衝突する直前、登がみねりを突き飛ばす。みねりが転び、路面に頭を打ち付ける。登は大型トラックに撥ね飛ばされ、路面に叩きつけられる。みねりと登が立ち上がり、再び歩き出す。全員が去る。

①誠一郎がやつてくる。

誠一郎●
事故の後、花巻さんは救急車で近くの病院に搬送されました。目が覚めたのは、翌日の昼過ぎ。直ちに精密検査が行われましたが、結果は異状ナシ。大事を取つて翌日も安静に過ごし、事故から三日後に退院となりました。

八月四日夕、調布市の病院のロビー。みねりがベンチに座っている。足元に、バッグ、頭に包帯を巻いている。穂香がやってくる。リュックを背負っている。誠一郎は去る。

穂香
みねりさん。

穂香ちゃん、来てくれたの？予備校は？

穂香 早退した。あ、でも、みねりさんのためじゃないよ。朝から頭痛がひどくて。

また寝不足じゃないの？

かもね。一応毎回四時間は寝るよ」としてゐるんだけど

三
一

残ってない、残ってない。睡眠不足は記憶力が低下して勉強の効率が落ちる、免疫力も下がる。どうも、この状態はよくない。

ひらねなくて。

みねり
模試の結果、良くなかったの？

穂香

上がる」とは上がったんだけど、期待したほどじやなくてね。だから、今月から勉強時間を延ばしたの。

でも、体を壊したら元も子もないじゃない。家に帰つたらすぐに寝なさい。

みねり 穂香 あーあ。今日まで入院してた人に体を労わられるなんて、情けない。

敏行がやつてくる。

敏行 穂香 お見舞い、一度も来られなかつたから、最後くらいはと思ひて。

予備校、六時までじやなかつたのか？

敏行 みねり 穂香 頭痛で早退したんだつて。

敏行 穂香 あるよ。（バッグを持ち上げて）荷物持ち。
穂香に）どうなの？ だったら、真つ直ぐ家に帰ればよかつたんだ。おまえが来ても、何もすることはない。

敏行 穂香 それは俺が持つからいい。おまえはさつさと帰れ。
穂香 仰せの通りに。（バッグを敏行に投げて、歩き出す）

敏行 （バッグを受け止めて）おいー穂香！

その時、登がやつてきたが、敏行の声にビクッと立ち止まる。

みねり 登 （登の方に向かつて）すみません。何でもないんです。

え？

穂香 お父さん、病院で大声を出さないでよ。

おまえがバッグを投げるからだろう。

敏行
みねり
まあまあ、穂香ちゃんもせつかく来てくれたんだし、みんなで一緒に帰りま
しょう。

敏行。で、会計は済んだの？

敏行
みねり
まだ。お義兄さん、申し訳ないけど、立て替えてくれる？ 明日銀行に行って、
下ろしてくるから。

いいよ、俺が出すよ。結局検査だけだったし、大した額にはならないだろう。
でも、お義兄さんにはたくさん迷惑をかけちゃつたし。小山田さんのお葬式
にも行ってくれたんでしょう？

敏行
みねり
ああ。小山田さんは「両親がいなくて、おばあさんと弟さんと暮らしてたん
だ。お二人には丁重にお詫びしてきたよ。

穂香
穗香
怒つてなかつた？

敏行
みねり
恨み言みたいた」とは言われなかつたな。弟さんは「う言つてた。「兄は人
助けをして死んだんです。弟として誇らしいです」つて。
(みねりに)よかつたね。みねりさんのせいにされなくて。

(敏行に)明日、小山田さんの家に行くね。お線香を上げさせてもらひて、
自分の口でお詫びを言つ。

敏行
みねり
ありがとう「やじこます。

登
みねり
え？

登
みねり
お義兄さん、今、「ありがとう」「やじこます」って言つた？

敏行
みねり
言ってないよ。

穂香ちゃんは？

「あうがとひ」「やこます」ついで、ぬつてないよ、みんな」と。

穂香
みねり
「ありがとう」「さいま
え? でも、確かに今。

え？ でも、確かに今。

あなた、もしかして、僕が見えるんですか？

みねり
(周囲を見回して)え?え?

美は一二ですよ。一二

112 *Journal of Health Politics, Policy and Law*

みねり おかげしないな 誰もしないのに

種香とおじかの みれいさん

みねり
なんかせよと幻聴みたいなものか聞こえて
まや、頃モ丁つ「後遺症」、

まさか頭を打つた後遺症か？

違いますよ。この人には僕の声が聞き取れるんですよ。（みねりに）そうで

みねり
繻示

みねりさん、しつかりして。

「あん、ちょっと気分が悪くなつてきた。おトイレに行つてくる。」

敏行 もう一度検査してもらつた方がいいんじゃないかな?

②みねりがトイレに行く。登が後を追う。敏行・穂香は去る

みねりが急に立ち止まる。登が衝突直前で立ち止まる。みねりが背後を振り返る。登がみねりの目の前で手を振る。みねりが周囲を見回す。登がみねりの視線の先に回り込む。

みねり やっぱり誰もいないよね。

います。

えつ？（周囲を見回す）

どうやらあなたには僕の姿が見えないようですが、僕は確かに「」にいます。

あなたの目の前に。

みねり いないよ。

います！いるんです！現に、あなたには僕の声が聞こえてるでしょ？

（耳を塞ぐ）

あっ！狡い！（みねりの手を掴もうとするが、手が通り抜ける）ああっ！ク

ソツ！体がないって、なんて不便なんだ！

「体がないって、なんて不便なんだ？」？

ええ、そう言いました。え？

何で？何で耳を塞いでも聞こえるわけ？

どうか、わかつた！

何が？

それはおそらく、僕があなたの耳じゃなくて、あなたの心に話しかけてるからです。僕は幽霊ですからね。体がないから、声帯を震わせて、息を声に変えることはできない。だから、実際には声を出してないんです。その証拠に、あなた以外の人に聞こえない。

あなた、今、幽霊って言つた？

はい。

「」とは、あなた、死んでるの？

ええ、今から三日前に交通事故で。

登 みねり

みねり

冗談言わないでよ。何で私が幽霊に話しかけられなきやいけないのよ。私が何かした？

何もしてません。したのは僕です。

登 みねり

僕は小山田登。トラックに撥ねられそうになつたあなたを助けて、代わりに死んだ男です。

登 みねり

あー、何だ、そういう」とか。

登 みねり

私は小山田さんの死に對して、責任を感じてる。自分が許せないと思つてる。その気持ちが小山田さんの声になつて、自分自身を責めてるんだ。

つまり、僕の声はあなたが作り出した幻聴だと？

登 みねり

そう、幻聴、幻聴。
じゃ、試しに聞きますけど、僕の弟の名前は「存知ですか？」

登 みねり

小山田優です。じゃ、祖母の名前は？

登 みねり

知らない。
小山田澄子です。僕があなたの作り出した幻なら、なぜあなたの知らないことを知つてるんです。

登 みねり

じゃ、やっぱり、幽霊？

登 みねり

そうです！幽霊です！まさか自分が幽霊になるとは思つてなかつたし、こいつして「幽霊です！」つて主張する」とになるとも思つてなかつたけど、それでもやっぱり、僕は幽霊なんです！

みねり

だとしてもよ、何で私にはあなたの声が聞こえるわけ？靈感なんてないのに。

登

僕はあなたの身代わりになつて死んだ。そのおかげで、僕らは特別な絆で結ばれたんでしょう。

登
みねり

もしかして、私のこと、恨んでるの？私のせいで死んだから。
そんなふうには思つてません。

登
みねり

じゃ、何で私の前に現れたのよ。

登
みねり

昨日、葬式が終わつて、する「」ことがなくて。で、あなたの「」とを思い出して。
要するに、暇だつたから？ねえ、あなた、いくつ？

登
みねり

三十七歳、独身。祖母からは、若い頃の草刈正雄にそつくりだつて言われて
ました。

登
みねり

どうせ見えないと思つて、見栄張つてない？

穂香がやつてくる。

穂香
みねり

みねりさん、具合はどう？

穂香
みねり

もう大丈夫。心配かけて」「めんね。

穂香
みねり

幻聴は？

登
みねり

今は全然聞こえない。穂香ちゃんこそ、頭痛は大丈夫？

登
みねり

みねりさん、ちょっと待つて！僕の話はまだ終わつてません！

穂香・みねりが去る。後を追つて、登が去る。

①誠一郎がやつてくる。

誠二郎● 花巻さんはタクシーで自宅に帰りました。家は義兄の上郷さんがローンで購入したマンション。すぐ近くを多摩川が流れています。花巻さんは十二年前から、このマンションで上郷さんの一家と暮らしていました。

八月四日夕、調布市の上郷敏行の家。みねり・敏行・穂香がやつてくる。穂香はリュックを背負い、バッグを持つている。誠一郎は去る。

みねり (部屋を見回して) たつたの三日、留守にしただけなのに、この散らかりようは何?

穂香 全部、お父さんの仕業だよ。何でもかんでも出しつぱなしにするんだから。
みねり そういう時は、気付いた人が片付けないと。

敏行 そうそう。家族はそうやって助け合わないとな。

穂香 悪いけど、私にはそんな暇はないの。(みねりに)じゃ、私は寝るね。三時
間経つても起きてこなかつたら、起してね。

みねり 頭が痛いんでしょ? そのまま朝まで寝れば?

穂香 ダメダメ。早退した分の遅れを取り戻さないと。

みねり
夕食は？食べられそう？

いらぬ。

敏行

いだろうし。

みねり

私は平気。でも、私がいない間はどうしてたの？まさか、毎晩俺は毎日残業で帰りが遅かったから、駅前のコンビニで弁当を

穂香
みねり
(みねりに) 私は買い置きの冷凍♪
どうして交替で作らなかつたの。

登がやつてくる。

いやあ、洗面所が大変なことになつてますよ。洗濯力ゴに服が山積みになつ

て
て。

（敏行・穂香に）洗濯は？誰もやらなかつたの？

そろそろやらなきやな、とは思つてたんだけど。

德
香

嘆氣の如く、朝便の荷物が届いた。荷物棚の側に立つ荷物を抱き取る。荷物は二つ、

登

(敏行・穂香に) もういい。今から私がやる。

敏行

洗濯が終わつたら、私が作る。お肉も野菜も、三日前のままなんでしょう？

悪くなる前に食べちゃわないと。

敏行

俺、何か手伝おうか？

登 洗濯機の使い方もわからないヤツはかえつて邪魔！
みねり お義兄さん、一応確認するけど、お風呂も一度も洗つてないよね？
敏行 今から洗う。洗い方はわかる。

敏行が去る。

穂香 私は？

穂香ちゃんは寝て。起こすのは三時間後だったよね？

穂香 うん。「あんね、みねりさん。

穂香が去る。

登 あの子、態度はしおらしいけど、結局言葉だけなんだよな。（みねりに）甘やかさないで、手伝わせたらどうですか？

みねり よし、まずは洗濯からだ。

登 また無視ですか。たまには返事ぐらいしてくださいよ。

（目を閉じて）聞こえない。私には何も聞こえない。

登 自己暗示なんかかけても無駄ですよ。悪いけど、僕はしゃべり続けますから。
みねり （目を閉じたまま）他人の家に勝手に入り込んで、文句ばっかり並べる幽霊なんて、絶対いない。

登 勝手じゃありませんよ。玄関で「お邪魔します」と言つたじゃないですか。

②みねり・登が去る。誠一郎がやつてくる。

誠二郎● 花巻さんは洗濯をして、夕食を作つて、穂香さんを起^{ハシ}して、三人で食べて、食器を洗いました。その間も、小山田くんはずつとしゃべり続けましたが、花巻さんはすべて無視しました。

みねり・登がやつてくる。みねりは麦茶の入ったコップを持っている。誠二郎は去る。

登

いやあ、お疲れ様でした。「これだけ動き回れるつて」とは、事故の後遺症は全くないようですね。せっかく助けたのに、病院に入院したって聞いて、心配してたんですよ。でも、あなたは無事に元の生活に戻れた。よかつた、よかつた。

でも、まだ幻聴が聞こえる。
ん？ 今のは僕に話しかけたのかな？

独り言。

登
みねり

独り言にしては、僕の質問に対する回答になつてしませんでしたか？え？え？
うるさ～うるさい～うるさい～。一いつちは家事で忙しいのに、余計なことをペチ
ヤクチヤペチヤクチヤ。でも、私はもう決めたの。一度と返事をしないつて。
ダメダメダメダメダメ。

みねり

龍平がやってくる。

登 うわーつ！誰？誰ですか？

みねり どうしたの、龍平くん？おなか空いたの？

（頷く）

龍平くんの分は冷蔵庫にあるよ。温めようか？

自分でやる。

（みねりに）えーと、この人はこの家人？

（龍平に）私がいない間、食事はどうしてたの？穂香ちゃんみたいに、カツ プラーメン？

それだと体に悪いから、素麺を茹でてた。

三日間、ずっと素麺？

かえつて体に悪い気がするけど。

（龍平に）でも、お義兄さんや穂香ちゃんと違つて、ちゃんと自分で作つた んだね。偉いよ。

（龍平に）でも、お義兄さんの息子さん、つまり、あなたの甥っ子さんですね？

みねりさん、お見舞いに行かなくて、ごめんね。

いいの、いいの。検査をしただけで、どこも悪くなかったんだから。

みねりさんが無事で良かつたよ。助けてくれた人のおかげだね。

うん。

龍平が去る。

「いい」と叫うなあ。（みねりに）彼、病気か何かですか？あの恰好からする と、外から帰つてきたんじやなくて、自分の部屋にいたんですよね？みねり さんが帰つてくる前から。でも、おかしいな。彼は咳をしてなかつたし、熱

登

もなさそうだった。ところとば、病気じやなくて、精神的なもの?まさか、引きこもり?

その言い方はやめで。

あ、やつと反応してくれた。

龍平くんは引きこもりじゃない。まあ、一時はそういう状態になっちゃったけど、今は通信制の大学に入つて、毎日勉強してる。

自分の部屋で、ですよね?

まあね。

外出はできるんですか?

それはまだ。でも、前は自分の部屋から一歩も出られなかつた。その頃に比べたら、大きく進歩してゐる。だから、おかしなレッテルを貼らないで。

わからました。申し訳ありませんでした。

謝らなくていい。

いや、僕はあなたに反応してほしくて、わざと気に障る言い方をしたんです。

「めんなさい。

もういい。今度は私に謝らせて。

僕を無視したことですか?

それもそうだけど、一番最初。あなたが助けてくれなかつたら、私は死んで

た。それなのに、今までお礼も言つてなかつたし、お葬式にも行かなかつた。

それは入院してたからでしょう。仕方ないですよ。

小山田登さん、だよね?

僕はこつちです。

こいつちでどつち?

みねり

登みねり

みねり

登みねり

みねり

登みねり

みねり

登みねり

登みねり

登みねり

みねり

みねり

みねり

登みねり

みねり

登みねり

登みねり

</

登 あなたから見て、一〇時の方向です。

登 一〇時？あ、二二ちか。小山田さん、私を助けてくれてありがとうございます。この御

恩は一生忘れません。

登 僕が今、「二二二二」とを認めてくれたんですね？

登 うん。仕方なく。

登 仕方なくか。でもでも、今、あなた、「二」の御恩は一生忘れません」と言いましたよね？

登 言つたけど、何か、イヤな予感。

登 『鶴の恩返し』の昔から、この国には「恩返し」という言葉があります。い
い言葉です。が、亡くなつた人に恩返しをする」とは誰にもできない。と
ころが、僕は「二二二二。あなたは恩返しできるんです。どうですか？「ラッキー
だと思いませんか？

登 なんか、テレビ・ショッピングみたいな口調になつてない？

登 僕はまだ三十七です。死ぬにはあまりに早すぎる。やり残した」とがいつぱ
いあります。

登 それを私にやれつて言つの？

登 お恥ずかしい話ですが、僕はまだ『スター・ウォーズ』のエピソードのを見
てません。富士山にも五合目までしか登つてません。大谷翔平のホームラ
ンを見に、ドジャースタジアムに行きたかった。

登 それ、今からでも出来るんじゃない？あなた一人で。

登 ええ、いざれやります。でも、その前に、どうしてやりたいことがある。た
だし、これは僕一人じゃ出来ない。あなたの力を借りないと。

登 それは何？あ、一応言つておくけど、やるかどうかはわからないからね。聞
みねり

登 みねり

いてから決める。

僕は小説を書きたいんです。

無理。それはいくら何でも無理。私、子供の頃から作文、苦手だし。

あなたに書けなんて言つてません。口述筆記をしてほしいんです。

ああ、あなたが口で言つたことを、私は文字にすればいいのね？

その通りです。僕は出版社で編集の仕事をしてたんですが、元々は作家になりましたから。そう思い始めたのは高校生の時で、何作か書いて、コンクールにも応募したんですが、一度も入賞しなかつた。就職してからも執筆は続けて、ようやく自信作と呼べるものが書いて、いや、あとちょっとで書き上がるつて所まで来たのに。

事故に遭つたのね？

僕の仕事は本を出すことです。が、それは全部、他の人が書いたもの。僕は自分が書いた本を出したかった。一冊でいいから、出したかった。

気持ちはわかるけど、本になるかどうかは出来次第じゃない？

わかつてます。だから、あなたには小説が完成するまで手伝つてほしい。この通りです。（頭を下げる）

この通りつて？

頭を下げたんです。九〇度の角度で。

でも、そんなこと出来るかな。声しか聞こえないのに。

穂香がやつてくる。

穂香 みねりさん、今のは何？ 独り言？

みねり

穂香ちゃん、落ち着いて聞いてくれる？ 実はね。

登 僕のことは言わない方がいいですよ。正気を疑われるに決まっています。

（みねりに）実は何？

穂香 実は病院にずっと一人でいたら、独り言を言う癖がついたやつで。

穂香 そうだったんだ。心配して損したな。私、先にお風呂に入つてもいい？ 三時

間も寝たのに、まだ眠くて。

登 無理しないで、今日は終了つてことにしたら？

穂香 そういうわけには行かないの。

穂香が去る。

登

根性あるなあ。家事は全然やらないけど。

登 みねり

お風呂、覗きに行かないでよ。

登 みねり

行きませんよ！ それより、僕の頼み、聞いてくれますか？

登 みねり

口述筆記？ でも、私、パソコン持つてないし。

登

そのことについては考えてあります。まずはですね。

みねり・登が去る。

①誠二郎がやつてくる

誠二郎● 次の日の朝、花巻さんはいつも通り、朝六時に起きました。昨日の分の洗濯をして、敏行さんと穂香さんを起こして、龍平くんにも部屋の外から声がけをして、家族四人の朝食を作りました。

八月五日朝、敏行の家。敏行・みねり・登がやつてくる。敏行はカバンを持っています。
誠二郎は去る。

みねり お義兄さん、今日は帰りは?

敏行 昨日早退したから、残業の可能性が高い。わかつたら、連絡する。

みねり そう言って、五回に四回は忘れるんだから。

敏行 あ、みねりちゃん、今日は小山田さんの家へ用間に行くんだよね? 後で住所をラインするね。

(みねりに)僕が案内しますよ。

(敏行に)大丈夫。自分で何とかなる。

どうやって? 警察に電話して聞くの?

それは無理だよね。やっぱりラインして。

登 みねり

敏行 みねり

みねり

穂香がやつてくる。リュックを背負っている。

總督

のねりさん、ごめん。食欲ないから、食べずに行く。ダメダメ。昨夜だって、半分以上残したじゃない。

タメダメ。 昨夜だつて、半分以上残したじやない。

み
ね
り

穂香に)あんまり不規則な生活をしてると、そのうちぶつ倒れるぞ。

每行

和香川縣志

い。お父さんはどうなの？毎日毎日残業で、いつも胃が悪そうな顔してるじゃな

登

穂香

穂香

敏行に)残業して褒められたのは昭和の話。今時の有能なサラリーマンは仕事の効率を良くして、定時に帰つてるらしいよ。

毎行

毎行

毎行

のほうは俺が無能だって言いたいのか？
トップ一あと三分でバスが来るよ。

敏行・穂香が去る。

あの二人、一緒にいる時はほとんど喧嘩しませんか？

みねり　　言いたいことが言ひ合へるのせ、懸い」とじやないと想う。

でも、最低限の思いやりは必要でしょう。特に許せないのは、穂香ちゃんだ
人に作ってもらつた食事を食べないなんて、言語道断です。

龍平がやつてくる。

みねり
龍平
みねり
代わりに食べてくれるの？ありがとう。

（龍平に）君だけはほんの少しだけ思いやりがあるようだな。そうだ。みねりさん、彼にちょっと聞いてみてくれませんか？

何を？

え？

あ、その、龍平くんにちょっと聞きたいことがあってね。

食事の後、自分が使った食器を洗つてみようとは思わないかい？

（龍平に）食事の後、自分が使った食器を洗つてみようとは思わないかい？

え？

いやならないよ。龍平くんも勉強が忙しいだろうし。

別に忙しくない。洗うよ。

龍平が去る。

みねり
信じられない。あの子が家事を手伝うなんて。

登 みねり
あなたはさつき、「」う言いましたよね？言いたいことが言い合えるのは、悪い」とじゃないって。だったら、あなたも言うべきじゃないですか？

みねり
家事を手伝えって？

登 みねり
「手伝え」「じゃない」「やつて」です。家事っていうのは本来、家族全員で分担してやるものでしょ？

みねり でも、私以外はみんないろいろ大変なんだよね。

②みねり・登が去る。誠二郎がやつてくる。

誠二郎 ● それから花巻さんは掃除とゴミ出しをして、家を出ました。調布駅から電車に乗つて、東西線の西葛西へ。小山田くんの家は、駅前のイタリアンレストラントで、二階が住居になつていました。

江戸川区西葛西にある、登の家。みねり・登・優がやつてくる。みねりはバッグを持つている。誠二郎は去る。

優 みねり (みねりに)すいませんね、わざわざこんな遠い所まで。
遠くなつたですよ。電車で一時間ちょっとだつたし。

優 みねり そうなんですか？俺、山手線より西に行つたことがなくて、調布つて町がど
こにあるのか、マイチ掴めてなくて。確か、八王子のあたりですよね？
みねり いいえ、もう少し手前です。
優 みねり なるほどね。とにかく、わざわざお越しただいで、本当にありがとう、いざ
います。花巻さんの無事な姿を見て、天国の兄貴も喜んでると思います。
まだ二〇にいるけどね。

(優に)あの、仏壇に飾つてあつた写真は？

あ、花巻さんは兄貴の顔を知らないんでしたよね。あの写真が兄貴です。
え？でも、小山田さんは若い頃の草刈正雄にそつくりだつて。
僕じゃなくて、祖母が言つたんです。

登 みねり 優 みねり 登 みねり

優
みねり
花巻さん、兄貴と話をした」とあるんですか?いいえ。その、義兄がお葬式の時に他の方から聞い

いいえ。その、義兄がお葬式の時に他の方から聞いたそうで。そう言ひえれば、お葬式に伺えなくて、申し訳ありませんでした。その代わり、こうして線香を上げに来てくれたじゃないですか。それで十分ですよ。

澄子がやつてくる。グラスを載せたトレイを持っている。

澄子
みねり
花巻さん、アイスティーにレモンは入れる?
あ、どうかお構いなく。

あ、どうかお構いなく。

澄子 まあまあ、お互い顔を合わせるのは初めてだけど、あんたは登が命懸けで助けた人だ。もう赤の他人じゃない。だから、遠慮ナシで行こうよ。
みねり すみません。じゃ、入れてください。

よし来た。（グラスにレモンを入れる）

（みねりに）俺もばあちゃんと同じ気持ちですよ。花巻さんには何の恨みもない。だから、またいつでも遊びに来てください。

みねり
ありがとうございます。

いや、そろそろ本題に入りましょうか。

澄子（みねりに）よかつたら、お昼食べてつてよ。うちのフンチは評判がいいんだ。もちろん、お代はいただかないよ。

みねり 残念ですが、この後、用事があるので。

まあ、そう言わないで。うちの店は死んだ旦那が始めたんだけどね、今年でちょうど四〇年になるんだ。味は保証するよ。

優

(みねりに) ばあちゃん、「」の歳になつても、調理場に立つてゐるんですよ。
じいちゃんの味を守るんだつて。

まだおまえには任せられないからね。

みねりさん、本題に。

(みねりに) 私たち夫婦には娘が一人いたんだけどね。お嫁に行つて十年目に
に、登と優を連れて出戻つてきた。で、またすぐに別の男の所へ行つちまつ
た。登と優を残してだよ。「落ち着いたら迎えに来ます」とか何とか言つ
て。

(みねりに) 僕が五歳で、兄貴が九歳の時です。

(みねりに) 仕方ないから、私たちが育てたよ。まあ、二人ともいい子だつ
たから、あんまり手がかかるなかつたけど。

(みねりに) いや、俺の面倒は兄貴が見てくれたんですよ。

(みねりに) いや、俺の面倒は兄貴が見てくれたんですよ。
(優に) 優しいお兄さんだつたんですか?

みねりさん!

(みねりに) そりやあもう。勉強は出来るし、ケンカは強いし、学校でも有
名人でした。俺は小山田登の弟だつてことで、イジメに遭わずに済んだんで
す。ただ、一つだけ欠点があつて。

言うな! (優の口を塞ぐ) とすると
モテなかつたことだね。

ああ。(頭を抱える)

(みねりに) それが私には不思議だつたんだよね。あの子はなかなかのイケ
メンだつたよ。若い頃の西田敏行にそつくりだつた。

澄子 登 澄子 登 澄子 登

優 澄子 登 澄子 登 澄子

優 澄子 登 澄子 登 澄子

優 澄子 登 澄子 登 澄子

みねり

みねりさん!

み
ね
り

草刈正雄じゃなくて?

嘘をついてすみませんでした。

（みねりに）でも、俺にとつては自慢の兄でした。

澄子

優澄子

(みねりに)今はファミレスに押されて、経営はギリギリなんですけどね。(みねりに)この子は登と違つて、算数が苦手だったんだ。でも、女の子にはよくモテた。お陰様で、来月結婚するんだよ。

みわし

みねりさん、もう十分じゃないですか？

みねり

(優に)あの、登さんのお部屋を見せていただいてもいいですか?
どうぞどうぞ。俺が案内しますよ。

登

(みねりに)いやあ、自分の噂話を田の前で聞くのがこんなに辛いとは思いました

③みねり・登・優が登の部屋に行く。

優

(みねりに)男の部屋にしては綺麗でしょう?兄貴は子供の頃から几帳面だったんですよ。

(机の上のハニエパンを握りし)「これ、登れるパンか? あなたね?」

みねり

もし「迷惑でなければ、何日か貸していただけませんか？」

何のために?

登さんがどんな人だったのか、もうと知りたくて。

でも、弟の俺も中を見た」とはないんですよ。日記でも書いてたらまずいし。まずいと思ったものには絶対に手を付けません。だから、ぜひ。

いや、やっぱり無理ですよ。

(優に) 実は私、登さんの友達なんです。

なぜそんなバレバレの嘘を。

(みねりに) 本当にですか? だったら、なぜ今まで黙ってたんです。

知り合つたのがつい最近で、まだお互いのことをあまりよく知らないし、友

達だと思ってたのは私だけだったかもしれない。

じゃ、事故の時は一人で歩いてたんですね？

ええ。

だから、あなたを助けたのか。そういうことだったのか。

まさか信じるのか？

(優に)登さんは今、小説を書いていて、ぜひ私にも読んでほしいって言つ

たんです。

兄貴が小説を？そんな話は聞いたことがないけど。（ノートパソコンを開い

て)でも、このパソコン、ロックがかかつてゐるから、パスワードを入れないと、開きませんよ。

パスワードなら、登さんから聞いてます。(周囲を伺う)

AYANAMIREI[®]

(優レ) AYANAMIREI°

(キーを叩きながら)AYANAMIREI。開いた。

なぜ、「んなパスワード」といってしまったんだ。

(みねりに)パスワードまだ教えたってことは、やっぱり兄貴はあなたを友達だと思ってたんですよ。わかりました。お貸しします。

ありがとうございます。

あの、「おかしな」とを聞くようですが、兄貴は俺の結婚について何か言つてませんでしたか?

何かつて?

だから、賛成とか反対とか。

そんなの、賛成に決まってるだろう。

(みねりに)いや、実は彼女に言われたんですよ。「お兄さんが亡くなつてすぐに結婚なんてできない。式を延期しよう」とつて。

何だと?

兄貴が生きてたら、何て言つだらうな。

決まってるだろう!俺の「」となんか気にしないで、式を挙げろ!延期なんて絶対に反対だ!

みねり・登・優が去る。

①誠一郎がやつてくる

誠一郎● 花巻さんは小山田くんのノートパソコンを持って、西葛西を出ました。そのまま帰宅するつもりだったのですが、小山田くんにちょっと用事があると囁かれて、田黒にある徳丸書店に行きました。

八月五日昼、品川区目黒にある徳丸書店。みねり・登・麻衣子がやつてくる。みねりはバッグとノート。パソコンが入ったバッグを持っている。

麻衣子

(みねりに)宮守は朝から打合せに行ってましてね。もうそろそろ帰社すると思つんですが。

登

(みねりに)じや、帰つてくるまで待ちましょう。
(麻衣子に)お帰りになるまで待たせてください。

麻衣子

失礼ですが、宮守とはどのような「関係で？」お会いしたことはあります。私は小山田さんの知り合いで。

麻衣子

ああ、小山田優さんの。

麻衣子

いじめ、お兄さんの登さんの
おなか。

みねり

麻衣子

違いますよ！最近知り合つたばかりで、何度も話をしただけです。
ですよね。小山田くんとは彼が入社してから十五年の付き合いになりますけど、浮いた話は一度も聞いたことがありません。

登 麻衣子

（みねりに）はつきり言つて、ロマンスとは全く無縁な人でした。

登 麻衣子

麻衣子

（みねりに）でも、編集者としては非常に優秀だったんですよ。特に新人を育てるのが上手で、彼のおかげで有名になった人は何人もいます。もしかして、あなたも作家志望？

みねり

麻衣子

みねり

登 麻衣子

みねり

登 麻衣子

みねり

登 麻衣子

みねり

（みねりに）でも、それ、ノートパソコンですよね？その中には書きかけの小説が？
あ、これは小山田さんのです。小山田さんは、言わないで！僕が小説を書いてることを秘密にしてたんです。
(みねりに)小山田くんは、何ですか？

小山田さんは新しいのを買うから、これは私にくれるつで。
じゃ、それは小山田くんの形見？

ええ。今、西葛西のお宅へ行つて、いただいてきたんです。大切に使おう
と思います。

弓奈がやつてくる。

弓奈

麻衣子

部長、ただいま戻りました。
待つてたのよ、宮守さん。（みねりを示して）「ちらは花巻さん。小山田く

んの知り合いで、あなたに会いにいらしたの。

（弓奈に）初めまして、花巻です。

宮守です。今日はどのような用件で。

用件はですね。（周囲を伺う）

彼女に聞いてください。結婚式を延期するって言い出したのは本当かつて。

え？ そんなこと。

そんなこと？

（みねりに）いいから早く。

（弓奈に）えーと、あのですね、初対面の私が「こんなことを聞くのもどうか」と思うんですけど、さつき小山田さんのお宅へ伺つたら、あなたが結婚式を延期するって言い出しちゃって。

そうなの、宮守さん？

はい。

理由は僕が死んだから？

（弓奈に）理由はやっぱり、小山田さんが亡くなつたから？

そうです。お兄さんが亡くなつて、ひと月も経たずに結婚式を挙げるなんて、常識的にありえないと思うんです。

そんなことはない！

（弓奈に）まあ、仕方ないかもね。

仕方がない！

（弓奈に）私は仏教の信者じゃないけど、人間の魂は亡くなつてから四十九

日目に極楽浄土へ行くんだって。つまり、今はまだこの世にいるのよ。

ええ、いますよ。いるけど、僕のことは気にしなくていい。

登

麻衣子

登

麻衣子

登

麻衣子

登

弓奈

登

弓奈

登

弓奈

登

弓奈

登

弓奈

麻衣子

(弓奈に)せめて四十九日が過ぎてからの方が、小山田くんも喜ぶんじゃない?

登

弓奈

みねり

弓奈

喜ばない…いいからあなたは仕事に戻つてください…
花巻さんは「」とを確かめにいらしたんですか?

ええ、まあ。

弓奈

失礼ですけど、あなたの「」とは優くんから聞いてなくて。だから、式にもお招きしてませんよね?それなのに、どうして?

みねりさん、もうすぐお昼です。

登

みねり

花巻さんと畠守さんは会社を出て、田黒駅の方へ歩き出しました。小山田くんには彼の行きつけのトンカツ屋を勧められましたが、あつさり聞き流して、

誠二郎 ●

②みねり・登・麻衣子・弓奈が去る。誠二郎がやつてくる。

「ホームページに入りました。

徳丸書店の近くのコーヒーショップ。みねり・登・弓奈がやつてくる。みねりはバッグを二つ持つている。弓奈はグラスとサンドイッチを載せたトレイを持っている。

弓奈 花巻さんのお名前って、「みねり」ですか？

みねり ええ、そうですけど。

弓奈 それじゃ、もしかして、事故の時、小山田さんが助けた人？

登 (みねりに) 優から聞いたんですよ。優に話した時みたいに、友達だったってことにしてましょう。

みねり (弓奈に) 実はそうなんです。私と小山田さんは事故の前から友達で、あの日は一人で歩いてたんです。

弓奈 だから、あなたの身代わりになつたんですか。ひょっとして。

みねり・登 それはない！

弓奈 まだ何も言つてないのに。

登 みねりさん、説得を開始しましよう。今から、僕の言つ通りに話してください。富守さん、私は結婚式の延期には反対です。

みねり え？

登 みねり さあ。

弓奈 富守さん、私が「こんな」と言つ出したらきっと驚くだろうし、自分でも本当にさしこがましいと思うんだけど、私は結婚式の延期には反対です。

弓奈 なぜですか？

登 小山田さんはあなたの方の結婚を喜んでいた。式を延期したら、かえつて彼を

悲しませぬ」とになります。

みねり

(弓奈に) 小山田さんはあなたの方の結婚を喜んでいた。式を延期したら、何がつけ?

弓奈

でも、別に結婚をやめるわけじゃない。あくまでも延期ですよ。

登

納得しないでください。続き、行きますよ。延期なんて絶対にしない方がいい。」今まで来るの」「どれだけ苦労したか、あなたは忘れたんですか?

み
ね
り

無理！私は事情が何もわかつてないんだよ。それなのに、説得なんて。
花巻さん、どうしたんですか？

み
ね
り

「ごめんなさい。一から質問していいですか？そもそも、あなたは小山田さんの同僚ですかね？そのあなたがなぜ小山田さんの妹さんと結婚する」とどこな

そんなことを思ふがくとも、説得は出来る。

み
ね
り

(弓奈に) お願い。教えて。

登

ああ、もう！勝手にしてください。

登が去る。

弓奈
(みねりに) 小山田さんは私の四年先輩で、入社した時からいろいろお世話

になつてたんです。で、ある時、食事に誘われて。

みねり
デートですね？

弓奈 それが違うんです。「僕の家はイタリアンレストランをやつてるんだ。よか

つたら、一度食べに来ないか」と。行ってみたら、信じられないほどおいしくて。で、小山田さんにお礼を言つたら、厨房に入つていつて。

登・優がやつてくる。優はシェフの服装。

登
弓奈

登
弓奈

年だ。

優
弓奈

（弓奈に）え？ タメ？ 出身、ど？

神戸です。

あ、ごめん。俺、山手線より西に行つたことがなくて。神戸って確か、京都のあたりだよね？

まあ、広い意味で言えば。

ヴィッセル神戸の試合、見に行つた」とある？

優
弓奈

私、サボーターです。小学一年の時から。

うわあ、筋金入りじゃん。俺は浦和レッズのサボーター。で、中学も高校もサッカー部。今は友達とフットサルのチームを作つてる。良かつたら、試合見に来ない？

弓奈

行きます、行きます！ 次はいつですか？

登・優が去る。

みねり
で、付き合い始めたと。

奈
優くんて、料理も上手だけど、サッカーも凄いんですよ。で、毎試合応援に
行ってるみたいで、仲良くなつて。

みねり
プロポーズはどっちから?

弓奈 優くんです。私の誕生日にお店に招待してくれて、フルコースを”駆走して
くれて、最後にコーヒーとデザートと薔薇の花束を。
弓奈 やるなあ、優くん！ そんなことされたら、断れないよね。
弓奈 まあ、私も歳も歳だし、そろそろとは思つてたんで。
弓奈 なるほどね。小山田さんは二人の出会いのきっかけを作つたわけだ。
弓奈 だから、その日のうちに報告しました。小山田さんが帰つてくるのを待つて、

登・優がやつてくる。

あれ？ 富守さん、今日も来てたんだ。

兄貴、聞いてくれ。実は俺たち、結婚する」とになつた。

結婚？ ちょっと待て。そもそもおまえと富守さんは付き合ってたのか？ は？ 僕の試合、いつも応援しに来てくれるだろ？ 気付かなかつたのか？ いや、俺は「富守さん、本当にサッカーが好きなんだな」とつて。

それだけなら、ヴィッセル神戸を応援しに行つてます。

（登に）富守さんは俺にはもつたいほど素敵な人だけど、俺、頑張つて幸せにするから。

そうじゃなくて、二人で力を合わせて幸せになるんでしょう？

だよ。ありがと。つ。

（登に）ありがと「ざいます。

そうか。あまりの衝撃になかなか頭が追いつかないけど、俺の「ことば」はどうで
もいい。一人ともおめでとう。どうか幸せになつてください。

優が去る。

みねり
弓奈

（弓奈に）ああ、羨ましい。聞けば聞くほど、順風満帆じゃない。

いいえ、苦労したのは「こと」からなんです。付き合い始めて一年も経つてな
つたから、お互いの「こと」があまりわかつてなかつたんですよ。結婚した後
の「こと」を話し合つたら、「こと」とく意見が対立して。

みねり
弓奈

ああ、子供はどうするとか？

彼は最低三人はほしいうて言つたけど、そんな「こと」したら、私は何年休職す
ることになるか。彼つたら、「俺が食わせてやるから、辞めちまえ」って。
わあ、意外と昭和だったんだ。

みねり
弓奈

でも、私たちが喧嘩するたびに、小山田さんが仲裁に入つてくれて、何とか
今まで済み付けたんです。でも。

でも、何ですか？

うわあつー戻つてたんだ。

戻つてたつて？

えーと、話がいつの間にか現在に戻つてたんだなつて。

そうです。小山田さんの事故があつて、また改めて考えたんです。式の「こと
だけじゃなくて、結婚自体を。

みねり
弓奈

戻つてたつて？

えーと、話がいつの間にか現在に戻つてたんだなつて。

登

みねり

弓奈

みねり・登・弓奈が去る。

何だつて？

（弓奈に）延期じゃなくて、ナシにするひいて？

だつて、いろいろ心配で。

もしかして、店の「とか？近頃あんまり儲かつてないみたいだし。

（弓奈に）もしかして、お店の経営が心配？
あ、それは全然。私、こう見えて、経済学部の出身なんで、いろいろアドバイスできると思います。

じゃ、何が問題なんだ。

（みねりに）彼つてとっても仕事熱心なんですけど、友達付き合いも熱心すぎるつて言うか。試合がない時は友達とドライブに行つたり、キャンプに行つたりするんです。で、中には女人もいるみたいで。

あいつ、まさか、浮気を？

（みねりに）彼は「ただの友達だ」と言い張るんですけど、そつだとしても、キャンプは行き過ぎじゃないですか？それで思つたんです。私たち、やつぱり住む世界が違うんじゃないかなって。

なるほど。意外と根が深いんだ。

だから、とりあえず式を延期して、じっくり考えたいんです。

①誠二郎がやつてくる。

誠二郎● 花巻さんは富守さんと別れて、中野に向かいました。駅前のスパーソンジムで週に五日、インストラクターをしているのです。今日はエアロビクスとキッズダンスのふたコマ。たっぷり汗をかいて、ジムを出ました。

八月五日夕、中野区中野のスパーソンジム。みねり・登がやつてくる。みねりはバッグを二つ持っている。

登 花巻さん、僕はあなたを見直しました。まさか、あんなにダンスが上手だなんて。しかも、踊っている時の人たちは美しい。とても僕より年上には見えません。

みねり 私の歳、知ってるんですか？

登 生徒さんが噂してたんですよ。「あれでアラフオードなんて信じられないって。

みねり そうだよ、アラフオードよ。あなたより年上なんだから、もう少し敬意を払つて。

登 僕は最初からそういうつもりですけど。

みねり

だつたら、頭ごなしにああしろこうしろつて命令するな。
いや、僕はあくまでも、あなたにお願いしてるので。

登

みねり・登が去る。

誠二郎●

電車を乗り継いで、調布まで戻ると、花巻さんは駅の南口の東急ストアに入りました。仕事帰りにここで買い物をするのが、彼女の日課になつていました。

調布市のスーパー。みねり・登がやつてくる。みねりはバッグ二つと買い物袋を持つている。

登

みねり

随分たくさん買い込みましたね。
昨夜は冷蔵庫に溜まつたもので適当に済ませちゃつたからね。今夜はもう少し手の込んだものを。

みねりさんは料理も得意なんですか？

得意でも好きでもない。ただ、十年もやつてると、自然と慣れてきて。
十年？

正確には十二年かな。

十二年前に何があつたんですか？

お姉ちゃんが亡くなつたの。で、私が後を継いだわけ。

みねり・登が去る。

誠二郎● 東急ストアを出ると、花巻さんは歩いて自宅のマンションに向かいました。が、マンションの前をあっせり通過。そして、多摩川の川岸まで来た所で、足を止めました。

多摩川の川原。みねり・登がやつてくる。みねりはバッグ二つと買い物袋を持つている。みねりが土手の階段に座る。

登

みねり

いい眺めですね。「ここに来るのも日課ですか？」
そう。「」で一休みしてから、夜の仕事に取りかかる。洗濯物を取り込んで、夕食を作つて、お風呂の支度をして。夜が一番忙しいから、「」で気合いを入れ直すの。

雨の日はどうしてくるんですか？

雨でも来るよ。傘を差して。

それで気晴らしになりますか？

雨の方がかえつていいの。大声を出しても、文句を言われないから。

大声って？

「拙者親方と申すは、御立会のうちに御存知のお方も「やりましょつが」

うわあ、そんな声出したら、警察に通報されますよ。

大丈夫、大丈夫。三分で終わるから、パトカーが来る前に逃げ出せる。「お江戸を立つて二十里上方、相州小田原一色町をお過ぎなされて、青物町を上りへお出なさるれば」

それ、外郎売ですよね？舞台の俳優さんが发声練習でやる。

登

みねり

登

みねり

登

みねり

登

みねり

登

みねり

みねり へえ、小山田さん、知つてゐるんだ。

担当してゐる作家さんが若い頃演劇をやつてて、教えてもらつたんです。

登 みねり 一緒にやる？

出来ませんよ。覚えてないんだから。

登 みねり

そうだよね。じゃ、失礼して。「欄干橋虎屋藤右衛門、只今は剃髪致して圓斎と名乗ります。元朝より大晦日まで御手に入れます此薬は、昔ちんの国の人ういううという人わが朝へ來り、帝へ参内の折から此薬を深く籠め置き、用ゆる時は一粒ずつ冠のすき間より取出す。依て其名を帝より頂透香と給はる。則ち文字にはいただきすぐにおいと書いてどうかん」うと申す」「

②みねり・登が去る。

誠二郎 ● タ食が完成したのは夜の七時過ぎでした。が、敏行さんも穂香ちゃんも帰宅

せず、連絡もなし。龍平くんは部屋に閉じ籠もつたまま。仕方なく、スマホでニュースを見ていると。

八月五日夜、敏行の家。みねり・登がやつてくる。みねりはノートパソコンを持つている。誠二郎は去る。

みねり (スマホを操作して) あ、穂香ちゃんからラインが来た。お義兄さんからも。

別の場所に、穂香・敏行が現れる。

穂香

みねりさん、「めん。電車で居眠りして、目が覚めたら京王八王子でした。
一時間後に帰ります。

敏行

みねりちゃん、「めん。たつた今、会議が終了。帰宅は九時過ぎの予定。

穂香・敏行が去る。

何やつてるんだ、二人とも！

登 みねり 穂香ちゃんが心配だな。体の調子が良くないのかも。

登 みねり 優しいなあ。高校生にもなつたら、自分で体調管理させないと。

みねり それでも、つい無理しちゃうんだよ。それをフォローしてあげるのが家族で
しよう？

登 みねり それはそうですが、あなたのやり方はちょっと甘すぎませんか？
私の「甘いのよ。

龍平がやつてくる。

龍平 みねりさん、昨日からずっと独り言を言つてゐるね。

みねり そう？全然気が付かなかつた。

龍平 部屋にいても聞こえるよ。まるで、見えない誰かと喧嘩してゐみたいだ。

登 みねり 錐い。(みねりに)さあ、どうやって誤魔化します？

龍平に)私、先月、お芝居を見に行つたでしよう？池袋のサンシャイン劇場
に。そのお芝居が凄くおもしろくて、いくつか忘れられないシーンがあつて、
それを自分でやつてたの。

そうだったのか。

信じるのか？普通の人はそんなことしないぞ。

(龍平に)夕食、出来てるけど、食べる?

今、レポート書いてるんで、書も終わったら。

また勝手なことを。

(龍平に) 何時頃、完成しそう?

わからない。下手したら、十二時過ぎるかも。

だったら、今食べて、レポートを書くエネルギーにすればいいだろう。どう

してそ
うやつ
て自分
の都合
しか考
えない
んだ。

まあまあ。あ。（龍平を見る）

また芝居？

そう。本当におもしろい芝居だったのよ。

じゃ、続けて。僕はレポート続けるから。

△
る。

登
ああ、あなたのやり方を見てると、イライラする。この家の人たちが自分勝

手になつたのは、あなたが原因ですよ。あなたの優しさが

自分勝手は言い過ぎじゃない？別に私も困つてないし。

でも、あなたは妻でも母親でもない。ましてや、家政婦さんでもない。

仕方ないでしょ?」この家には妻も母親もいなんだから。それより、今か

え？僕はあなたが家事を全部終わらせてからと思ってたんですが。

みねり 私もそうだけど、せつかく一時間空いたんだから。じゃ、準備するね。

みねりがノートパソコンを開き、操作する。

WORDを開いて、『ミスター・ムーンライト』ってファイルを出してください。

登 みねり それが小説のタイトル？

登 みねり そうです。あ、どんな話か、説明しておいた方がいいですよね？

登 みねり いらない。私は字を打つだけだから。

登 みねり え？でも、日本語は同音異義語が多いじゃないですか。「かじ」って書いても、炊事洗濯の「家事」、建物が燃える「火事」、鋼を鍛える「鍛冶」。どれにするかは、文脈がわかつてた方が。

登 みねり ノートパソコンを操作して）はい。文末が出たよ。続きをどうぞ。

登 みねり いきなりは無理です。ちょっと読ませてください。

登 みねり どうぞ。（ノートパソコンを見て）「これでよかつたのかな、かすみちゃん。僕は君の力になれたのかな？」はい、この続きは？

登 みねり あー、そうやって急かされると、かえって何も浮かびません。

登 みねり でも、早くしないと、穂香ちゃんが帰つてくるよ。

登 みねり そうだ。次は万葉集の短歌を引用しようと思つてたんだ。えーと、頭は確か。ダメだ！思い出せない！

登 みねり 万葉集って、ネットで読めないの？だったら、本屋さんに行く？

花巻さん、今から僕の家に行つてもらえますか？

登 みねり え？何で？

本を取りに行くんですよ、万葉集の。引用しようと思つてた短歌のページに

付箋が貼つてあるんです。お願ひします。

みねり

でも、穂香ちゃんが。

登

夕食なら、一人で勝手に食べますよ。さあ、行きましょう。

③みねり・登が去る。誠二郎がやつてくる。

誠二郎 ● 花巻さんは再び電車に乗つて、西葛西に向かいました。レストランは営業中でしたが、小山田くんに貸していた本を取りに来たと言つて、中に入れました。万葉集には確かに付箋が貼つてありました。

登の家。みねり・登・澄子がやつてくる。みねりは本を持つてゐる。澄子はショフの服装。誠二郎は去る。

みねり (澄子に)「これです、これです。お忙しい所にお邪魔して、申し訳ありませんでした。

澄子 忙しくないよ。客なんか一組しか来てないし。昼はそれなりに混むけど、夜はいつも暇でね。このまま行つたら潰れるよ。

登 (みねりに)「ロナで減つたお客様がなかなか元に戻らないんですね。でも、せつかく四十年も続けてきたのに。

みねり 澄子 私が死ぬまでは何とかして続けるよ。でも、その後、優がどうしようと、あの子の自由だ。元々料理を作る仕事がしたかったわけじゃない。旦那が死んで、仕方なく継いだんだから。

登 仕方なくじゃない。おばあちゃんの「ことが放つておけなかつたんだよ。

みねり
(澄子に) おばあちゃんのことが放つておけなかつたんぢやないですかね?

私はあんたのおばあちゃんじゃないよ。

(みねりに) 言い忘れてました。祖母の名前は澄子です。

(登子さん)「おやめやう、登子さん

私の名前、誰がひ聞く、ハシマリ

澄子
メヌリ
和の名前
詠から聞いがんかい?
登ぞいづか。ううう。一、はる前二。

登さんからです。もせさん、亡くなる前に

優がやつてくる。優はシルクの服装。

ばあちゃん、お客さん、帰ったよ。

だからって、店を空っぽにするんじゃないよ。不用心だろう？

花巻さん、優に頼むがやう。頼むるに謝れり。

元？呵で？

登
二

何でレジには売り上げと金銭が入ってるんだ。勝手に持ってきてしかれた?

ら、困るだろう？

登

(みねりに) 富守さんは結婚をためらつてゐる。それは優の勝手な行動が彼女を不安にさせたからです。とりあえず、友達とドライブやキャンプには行く

なつて、話のとくだせ。

みねり
無理。出来っこない。

出来るよ。店に入りて、レジの中身を取って、外の通りに出る。三分もかかる

正統

(みねりに) お願いします。この通りです。

みねり
どの通りつ

店の前を通りてる、西葛西虹の道だよ。

あちゃんは店に行けよ。不用心なんだろう?

花巻さん、大丈夫ですか?何か様子がおかしいけど。

優さん、「こんな」と、私が急に言い出したら、ますますおかしいと思われるかも知れないけど、屋間、徳丸書店に行った時、富守さんに会ったんです。
え?弓奈と?

(みねりに)富守さんの下の名前は弓奈って言うんです。

で、その時、弓奈さんが言ってたんです。結婚式を延期したいのは登さんのことだけが理由じゃないって。

うちの店が潰れるんじゃないからって心配なんだろう?
違います。優さんは友達とドライブやキャンプに行く。その中には、女人もいるって。

何だよ。弓奈のやつ、焼き餅焼いてるの?

そうじやなくて、結婚後の生活に不安を感じてるって言うか。

別に浮気してるわけじゃない。どの子も俺の大切な友達だよ。まあ、中には元カノも何人かいるけど。

それじゃダメでしょ?!

え?何で?

(みねりに)優に言ってください。富守さんに謝れ。ドライブもキャンプも一度と行きませんて誓えつて。

まさか、それを私に言わせるために、「ここに来たの?

澄子

登

優

みねり

登

優

みねり

登

優

澄子

みねり

優

みねり

優

みねり

優

みねり

登

みねり

みねり・登・優・澄子が去る。

①誠二郎がやつてくる。

誠二郎 ● 「この後すぐにお客さんが来て、優くんは店に戻りました。花巻さんも自宅に戻り、口述筆記を再開。しかし、小山田くんの調子が上がり、その夜はあまり進みませんでした。そして、次の日の朝。

八月六日朝、敏行の家。みねり・登がやつてくる。誠二郎は去る。

花巻さん、お願ひしますよ。あと一回だけでいいですから。

登 みねり どうして私が宮守さんを説得しなきやいけないの？私は赤の他人だよ。
 登 みねり それはそうですけど、僕の言葉が伝えられるのは、あなたしかいない。
 登 みねり 小山田さん、ちょっと待つて。確かに、私はあなたに恩がある。だから、小説が完成するまで口述筆記をするつて約束した。でも、約束はその一つだけ。私にも生活があるし、それ以上の事を求められても困る。
 登 みねり 確かに、あなたは忙しい。「この家の家事を一手に引き受けて、その上、スポーツジムでインストラクターまでしている。
 そう。私には暇がないの。
 登 みねり でも、あなたは生きてる。やりたいことをやる時間がまだまだたくさん残

つてますよね？でも、僕は死んでる。とりあえず今は「この世にいるけど、いつあの世に行くかわからない。一秒先かもしれないんです。

だったら、小説を完成させなさいよ。優さんたちのことは諦めて。

登 みねり
みねり 謹めたくない。僕は一人に幸せになつてほしいんです。

登 みねり
みねり そこがわからないんだよね。もしかしたら、結婚しない方がお互いのためかもしれないじゃない。

登 そんなことはない！

龍平がやつてくる。

みねり あ、龍平くん。今日も早いね。

龍平 今日は昨日とは別のシーン？

みねり そうそう。このシーンもよくつてさ。つい真似したくなつたの。

龍平 みねりさん、嘘ついてるよね？

みねり え？

龍平 だつて、一回見ただけの芝居を、そんなスピードで真似できる？

登 まさか、バレた？

（龍平に）じや、何だつて言うの？

龍平 芝居じやなくて、即興演技なんでしょ？設定だけ決めて、アドリブでセリフを言つやつ。

みねり 実はそうなの。一人の美女がワガママな幽霊に付きまとわれる話を一人でやつてたの。

龍平 お姉さん、本当に芝居が好きだね。

登 納得したのか？今の説明で？

敏行・穂香がやつてくる。

穂香 あ、お兄ちゃん、おはよう。

敏行 （龍平に）珍しいな、俺たちがいる時に、部屋から出でてくるなんて。勉強はちゃんとしてるのか？

（頷く）

穂香 もう少し早く起きれば、一緒に飯が食べられたのに。

敏行 無得無理。（龍平に）食事は相変わらず自分の部屋でしてるんだろう？

（頷く）

龍平 敏行 まあ、焦らず少しずつだ。勉強、頑張れよ。（みねりに）じゃ、行つてきます。

（龍平に）数学でわからない問題がいくつあるんだけど、教えてくれる？

（頷く）

穂香 サンキュー。（みねりに）行つてきます！

龍平 穂香 行つてらっしゃい。

敏行・穂香が去る。

みねり （龍平に）穂香ちゃん、成績が伸びなくて、悩んでるのよ。もし龍平くんに余裕があつたら、助けてあげてほしい。

龍平 わかった。今夜、教えるよ。

みねり ありがとう。

龍平が去る。

登 みねり 彼はあなた以外の人とは話が出来ないんですね？

大学に入学してすぐに、部屋に閉じ籠もるようになつてね。最初はお義兄さんも怒つちやつて、毎日大喧嘩だったの。で、突然、口を利かなくなつて。

私と話をするようになつたのも、ほんの二、三ヶ月前から。

登 みねり 彼には幸せになつてほしいですよね？

当たり前じゃない。あの子のことは生まれた時から見えてるんだから。僕も優に幸せになつてほしいんです。たつた一人の弟ですから。

自分の小説より大事つてこと？

登 みねり 富守さんは本当にいい子です。優に足りないものを全部持つてゐる。一人の結婚式を見届けるまでは、僕はあの世には行きませんよ。

みねり それはあなたが決めることじやないでしょ？

②みねり・登が去る。誠二郎がやつてくる。

誠二郎 ● 花巻さんは朝食の後片付けと掃除と「出しを」して、家を出ました。徳間書

店に行くのは、昨日に続いて二回目。富守さんは驚いてましたが、花巻さんはすぐに説得を開始しました。

八月六日朝、徳丸書店。みねり・登・弓奈がやつてくる。みねりはバッグを持っている。

誠一郎は去る。

みねり

宮守さん、お願ひします。ほんの五分でいいですから。

弓奈

どうして私が花巻さんに説得されなきやいけないんですか？花巻さんは何の関係もないのに。

登

みねり

それはそうだけど、僕の言葉が伝えられるのは、花巻さんしかいないんだ。（弓奈に）あなたの言い分はよくわかる。自分がでしゃばりだつて」ともしつかり自覚してる。でも、「これは小山田さんの遺志なの。あ、この場合の「遺志」は「遺言」の「遺」に「志」つて書いて「遺志」ね。

弓奈

みねり

小山田さんがあなたに遺言したんですか？大して親しくもないのに。
でも、嘘じやない。小山田さんは「うつ語ったの。「僕も優に幸せになつてほしいんです。たつた一人の弟ですから。「自分の小説より大事つて」と？」。
あ、今のは私のセリフね。

登

みねり

いいから続きを。

（宮守に）「宮守さんは本当にいい子です。優に足りないものを全部持つてる。一人の結婚式を見届けるまでは、僕はあの世には行きませんよ。」
そう言いながら、行つちやつたけどね。

あの、小説つて何のことですか？

宮守

みねり・登

え？

今、言いましたよね？「自分の小説より大事つて。
(みねりに)まずい。何とかして誤魔化してください。

(弓奈に)そんなの決まつてるじゃない。今、自分が担当してる作家さんの原稿の」とよ。

宮守

登

みねり

富守 本当にですか？小山田さんは自分でも小説を書いてるんじゃないですか？
みねり さあ。私は聞いてないですけど。

麻衣子・誠二郎がやつてくる。

麻衣子 富守さん、平倉さんがあなたに聞きたいことがあるって言つてるんだけど。
弓奈 あ、平倉先生、お久しぶりです。
誠二郎 何言つてるんだ。小山田くんの葬儀で会つたじゃないか。（みねりを見て）あ。
みねり 嘘。平倉くん？
誠二郎 花巻さん、なぜ「」にい。
みねり 私はちよつと、富守さんに用事があつて。平倉くんは？
誠二郎 僕はまあ、仕事つて言つか。
みねり そうか。平倉くん、今、作家なんだよね？て「」とは、「」の会社から本を？
誠二郎 うん。デビュー作からずっとお世話になつてる。
麻衣子 ひよつとして、お友達？
誠二郎 ええ、そうです。役者をやつてた頃の。
弓奈 え？ 平倉先生、役者だったんですか？
麻衣子 富守さん、あなたも編集者なら、お付き合いのある作家さんのプロフィール
ぐらい頭に入れておきなさい。平倉さんは高校時代に演劇を始めて、大学を
卒業した後、劇団に入ったの。演劇集団カラフルソックス。
(弓奈に) 今年で創立四十周年です。
(弓奈に) SF、ラブストーリー、時代劇、おもしろいのには何でも
手を出す、節操のない劇団よ。まあ、私は一度も見たことないけど。

弓奈

(誠二郎に)「じゃ、プロの役者だつたんですか?」

誠二郎

まあ、一応。でも、才能がない」とに氣付いて、作家に転向したんだ。

弓奈

花巻さんは? やっぱり、役者だつたんですか?

みねり

ええ、まあ、でも、もう十二年も前の話ですから。

誠二郎

花巻さん、先に仕事の話を済ませるから、ちょっと待つてくれる?

みねり

いいけど。(登を見る)

仕方ありません。

(弓奈に) 実は先週、小山田くんに次の新作の資料集めを頼んだんだ。それがどうなつたか知りたいんだけど。

弓奈

さあ、その話は何も聞いてません。小山田さんは亡くなる三日前から休んでたし。

誠二郎

休んでた? 病気か何かで?

麻衣子

本人から電話があつて、「熱が出たので、念のために休みます」つて。でも、変ね。彼の家は西葛西でしょう? 熱のある人がなぜ調布に行つたのかしら。

弓奈

そう言えはそうですね。

誠二郎

(麻衣子に) 目的は資料集めだつたのかもしません。だとしたら、彼の死は僕にも責任があつた」と。

麻衣子

いやいや、その判断は早計じゃないですか?

弓奈

(誠二郎に) 小山田さんの机にあつたもの、調べてみましょ? うか?

誠二郎

お願ひします。

③みねり・登・弓奈・麻衣子が去る。

誠二郎

といつわけでも、ようやく僕が登場しました。僕は花巻さんを誘つて、田黒駅前の「一ヒーショップ」に行きました。もちろん、この時点では、小山田くんの存在には全く気付いてませんでした。

八月六日昼、コーヒーショップ。みねり・登がやつてくる。みねりはカップを二つ持つてきて、一つを誠二郎に渡す。

誠二郎 あれから十二年も経つんだね。

あつという間だつたね。平倉くんの本、読んでるよ、全部。

詠一郎
全部？小説だけじゃなくて、コラセイ集も？対談本も？

たで、おもしろい人が何を読んでも、平倉くふらじしたと思つて、あ、もちろん、作家としても凄い才能だと思う。

誠一郎

小山田さんは平倉くんの担当編集者だったんだね。

誠一郎

そんなことは、一言も書いてなかつた。（登を見る）

卷二

花巻さんは小山田くんとどうやって知り合ったの？

樂也。故曰：「樂者，天地之和也。」

(誠一郎) 実は最近、マッチングアプリを始めてね。

登

てたことになるじゃないですか！

(誠二郎に)でも、実際に会ったのは一回だけ。

みねり
(誠二郎に)でも、實際に
それってもしかして。

うん。事故があつた日。

誠一郎 そうか。小山田くんはそのために調布に。

みねり 小山田さんには本当に感謝してる。ちょっとしか話してないけど、いい人だ

七五
䷱

全然心が籠もつてませんよ。

誠一郎
(みねりに)僕も同感だよ。でも、花巻さんがマッチングアプリをやつてる

みねり
いろいろ忙しくて、出会いがなくて。平倉くんは？

一度、結婚直前ま

う」って言われて。

みねり
またそれか。世界が違うからおもしろいのに

役者はもうやらないの?

え？ 今更無理だよ。私の歳知ってるでしょ？ アアアオーダよ

誠一郎 でも花巻さんは僕と違ひて才能があつた。辞めるって聞いた時もまた

しないと煙たんだ

あれは仕方なかつたの

訓一郎
かどじても
君はその気があるなら
復帰できることやないかな
役者目

みねり・登が去る。

①誠二郎がやつてくる。

誠二郎● 十一年前の八月、僕と花巻さんは同じ舞台に立つていました。池袋のサンシヤイン劇場。芝居の評判は上々で、日を追うごとにお客様さんの数が増えていった。そして、いよいよ迎えた千秋楽の朝。

十一年前の八月六日朝、敏行の家。みねり・上郷あきのがやつてくる。

みねり お姉ちゃん、頭痛はどう?

あきの みねり 八時間寝たら、大分良くなつた。これなら、お芝居、見に行けると思つ。
みねり あきの でも、まだ痛むんだ。私は無理してほしくないな。
あきの みねり ただの頭痛で、みねりの晴れ姿を見逃すわけには行かない。
みねり あきの オーバーな」と言わないでよ。別に主役でもないし。
でも、主役の相手役でしょう?『デビルマン』なら「牧村美樹」、『マジンガーナ』なら「アサヤカ」。

みねり みねり どつちも知らない。
あきの みねり とにかく、たつたの五年でヒロインなんて、大出世じゃない。
みねり その分、いっぱいダメ出しされてるけどね。

めきの お父さんとお母さんにも見せたかつたね。

みねり うん。でも、後でDVDを送る。

あきの
みねりの劇団で、長野には行かないの？そうすれば、二人にナマで見てもらら

えるのに

みねり
地方公演は大阪か神戸だけだね。たまに名古屋とか札幌には行くけど

じゃ、やっぱり東京に出てきても、ひっかないとん。

もし主役をやれる日が来たら、その時は招待しようと思つてゐる。

そうなの?・じゃ、みねりにはもうともうと頑張つてもらわないと。

みねり
わかってる。

差し入れはまたゴディバのチョコでいい?

みねり
ありがとう、お姉ちゃん。

でも、もしあ芝居がつまらなかつたら、そのまま持つて帰つて、龍平と穂香

に食べさせるからね。

②みねり・あきのが去る。

誠一郎● 花巻さんが劇場に到着したのが午前九時。ストレッチをして、ダンスの復習をして、そろそろ舞台衣装に着替えようかと思っていたところへ、突然電話がかかってきました。

池袋サンシャイン劇場の樂屋。みねりがやつてくる。携帯電話を持つてゐる。別の場所に、敏行がやつてくる。携帯電話を持つてゐる。。

お義兄さん、どうかした?

敏行 みねり お姉ちゃん、落ち着いて聞いてくれ。あきのが調布駅で倒れて、病院に運ばれた。

お姉ちゃんが?

敏行 みねり 俺は今、会社だけど、すぐに病院に駆け付ける。調布駅の近くの南山病院だ。

お姉ちゃんの具合は聞いた?

意識不明の重体とだけ言われた。それ以上はわからない。

敏行 みねり お姉ちゃん、昨夜、頭が痛いって言つて。今朝もまだ少し痛いって。

俺は何も聞いてない。頭の病気だとすると、脳梗塞か、クモ膜下出血か。

そんな。お姉ちゃん、まだ若いのに。

敏行 みねり みんな。お姉ちゃん、まだ若いのに。

敏行 みねり うん。一時間後に開演。

敏行 じや、すぐには来られないよな?

「めん。今から代役を立てるわけにも行かないから、私がやらないと。

敏行 みねり そうだよな。じや、芝居が終わつたら、俺に電話してくれ。

お義兄さん、お姉ちゃんをお願い。

敏行 わかつた。

③敏行が去る。

誠二郎 ● 僕は何も気付きました。花巻さんの演技は昨日までより力が入つてい

たけど、それは千秋楽だからと思つていました。ところが、クライマック
スのシーンで。

サンシャイン劇場の舞台。みねり・タケチ・オオツ・クサカベがやつてくる。誠二郎は去る。

みねりに) 先生、学校を辞めるつて本当ですか?

タケチ
みねり
(みねりに) 先生、学校を辞
誰に聞いたの、そんなこと。

誰だつていいじゃないですか。問題は先生が辞めるか辞めないかです。
「みんなに言いにくいなら、部長の私だけに書いてください。
別に隠していたわけじゃないのよ。私は今月いつぱいでこの学校を辞めます
よその学校に移るんですか?

みねり
そういうわけで、先生の仕事そのものを辞めるの。

「それじゃ、サルマル先生が言つてたのは本当の事なんですね？」
ハカ！

みねり
(オオツ) サルマル先生が何て言ったの?

はるか先生と結婚するつて。

ケサカベ
〔みねりに〕私たちか「絶対に信じられない」と言つたら、一嘘だと思う
がつぶへ二聞へてみらう。

たま：本人に聞いてみる」で

んでいます?

柿本光介とサルマル先生じゃ、全然タイプが違うじゃないですか。

いくら好きだって、出会わなければ結婚できないでしょう？

オオツ
そんなのわからないですよ。

クサカベ

先生、好きなら最後まで諦めちゃダメですよ。
サルマール先生だって、とっても素敵な人じやない。

みねり タケチ
タケチ
みねり

本当にそう思つてるすか？

思つてるよ。

オオツ
みねり
クサカベ

絶対に後悔しませんか？

しない、しない。

誰かがどこかで、先生のことを待つてると思わないんですか？

誠二郎・ヤマノウエが飛び出す。

誠二郎 はるか！

ヤマノウエ 柿本さん！話しかけちゃダメだって言つたでしょ！

タケチ ニュース・プラネットの柿本光介？

ヤマノウエ (柿本に)もう時間です。行きましょう。

クサカベ 柿本光介が「はるか！」だって。

オオツ 先生、知り合いなの？

みねり まさか。

誠二郎 はるか。

ヤマノウエ 柿本さん、法律違反ですよ。(柿本の腕を掴む)

誠二郎 (ヤマノウエを突き飛ばしてみねりに)春山はるかさんですね？

ええ。

誠二郎 はじめまして、柿本光介です。

ヤマノウエ さあ、もういいでしょ。

誠二郎 (みねりに)好きでした。会うのは今日が初めてだけど、ずっとずっと好きでした。

ヤマノウエ 柿本さん！

誠二郎 (みねりに)僕はただ、あなたに会いたくて。

ヤマノウエ さあ！

ヤマノウエが誠二郎の腕を引っ張り、二人が走り出す。が、途中で立ち止まる。

誠二郎 (みねりに)今、何か言いましたか？

みねり :

誠二郎 言いましたか？

みねり :

誠二郎 言いましたよね？

クサカベ 言いました。小さい声で、「私の」と、知ってるんですか？「つて。ねえ、

先生？

みねり :

誠二郎 「秋山の黄葉を茂み迷ひぬる

ヤマノウエが誠二郎の腕を引っ張り、走り去る。

クサカベ 先生。

④みねりが走り去る。後を追つて、タケチ・オオツ・クサカベが走り去る。誠二郎がやつ

てくる。

誠二郎

花巻さんがセリフを忘れるのを見たのは、これが初めて。本人にとつても、大ショックだったと思います。芝居が終わると、花巻さんは大急ぎで荷物をまとめて、楽屋を出ました。ところが。

サンシャイン劇場の樂屋。成島雄太・みねりがやつてくる。みねりはバッグを持つている。

待てよ、花巻！あんなひどいミスをしておいて、黙つて帰るつもりか？

申し訳ありませんでした。（頭を下げる）

俺だけじゃなくて、全員に謝れよ。おまえのせいだ、千秋楽がぶち壊しにならんだからな。

成島さん、私、ちょっと急用があつて。

何だよ、急用で、謝罪より大事な用事があるのかよ。
すみません。

だから、セリフが抜けたんじゃないのか？おまえには芝居より大事なものがある。だから、一〇〇パーセント芝居に集中してなかつた。そんなやつに舞

思います。

今日のミスでよくわかりました。私には舞台に立つ資格がありません。もう一度と舞台には立ちません。

成島 みねり

成島 おまえ、そんな」と囁ひちやつていいのか？
みねり 失礼します。（歩き出す）

成島 おい、花巻！

⑤みねりが去る。

誠二郎 ● 花巻さんが病院に到着した時、お姉さんは既に息を引き取っていました。三十九歳の早すぎる死でした。花巻さんは葬儀の翌日、劇団の事務所に行って、退団願を出しました。

四日後の昼、中野区中央にある劇団事務所。みねりがやつてくる。

誠二郎 花巻さん、ちょっと待つて。

みねり 何？

誠二郎 君に聞きたい」とがあるんだ。制作の仲村さんが言ってたんだけど、君のお姉さん、千秋楽のチケット取つてたのに、来なかつたんだよね？何かあつたの？
みねり …。

誠二郎 「めん。いきなりこんな」と聞かれても困るよね。でも、君は千秋楽の後、急いで帰つたじゃないか。それで、亡くなつたの。あの日に。

みねり え？

誠二郎 みねり 私たち、二人姉妹で、姉には本当にお世話になつてて。高校を卒業して、東京に出てきた時も、すぐに姉の家に転がり込んで、居候みたいにさせてもら

つて。おかげで、好きなだけ芝居が出来た。でも、これからは違う。姉には旦那さんと、小学生の子供が二人いるから、誰かが家の事、やらなきゃいけなくて。

誠二郎

みねり

それは、役者を続けながらでも出来るんじゃないの?

あの時、平倉くんが退場しようとした時、いつもだったら、「あ、柿本くんが行っちゃう」って思うのに、なぜか「お姉ちゃんが行っちゃう」って思つて。それでもう、泣くのを堪えるので精一杯で。

誠二郎

みねり

そうだったのか。

成島さんの言う通りだよ。私には芝居より大事なものがあつた。だから、辞めるしかないんだ。

みねりが去る。

① 誠二郎がやつてくる。

誠二郎 ● 花巻さんは僕と別れて、中野のジムに行きました。それから、調布の京王ストアで買い物をして、多摩川へ。川原へ下りる階段に座つて、流れを見つめました。

八月六日夕、多摩川の川原。みねりがやつてくる。バッグと買い物袋を持っている。階段に座る。登がやつてくる。誠二郎は去る。

どうしたんですか？元気ないですね。

…。

おなか空いてないですか？お昼、食べてませんよね？

小山田さんはおなか空かないの？

僕、おなか、ないですから。

そうだったね。

本当は辞めたくなかったんでしょう？役者。

…。

だから、ダンスと発声練習を続けてたんでしょう？いつでも復帰できるよう

登

みねり

登

に。

みねり

それは違う。ダンスは美容と健康のため。発声練習はジムで教えてる時、ハツキリクツキリしゃべるため。

インストラクターがそこまでしますか？

登
みねり

本当はそれだけじゃない。私は大きな声を出すのが好きなの。家のこととか、仕事のこととか、うまく行かないことがあっても、ここで外郎売をやるとスッキリする。ダンスもそう。踊つてる間は、イヤな事を忘れられる。

登
みねり

イヤな事つて？

登
みねり

それはいろいろ。

でも、一番は？自分のやりたいことが出来ないってことじゃないですか？

登
みねり

うるさいなあ。小山田さんの言いたいことはわかるけど、それは無理なの。

お義兄さんは残業と出張が多いし、龍平くんは家から出られないし、穂香ちゃんは受験だし。家のことが出来るのは、私だけなの。

だからって、あなたが全部をしょい込むことはない。みんなで分担すればいいじゃないですか。

登

みねり

どうやって？あの三人に食事が作れる？洗濯が出来る？

それはあなたが教えれば。

登
みねり

無理！絶対無理！

あなたは十二年もお姉さんの代わりを務めた。恩返しはもう十分果たしたと思いますよ。

みねり
それでも無理。

みねりが去る。後を追つて、登が去る。

②誠二郎がやつてくる。

誠二郎 ● 花巻さんは家に帰ると、いつも通りに家事をこなしました。いつも通りに、夜の七時に夕食が完成。いつも通りに食卓は無人。予想はしてたけど、やっぱり気持ちが沈みました。

八月六日夜、敏行の家。みねり・登がやつてくる。誠二郎は去る。

みねり (スマホを操作して)あ、二人からラインが来た。

別の場所に、穂香・敏行が現れる。

穂香 みねりさん、「めん。今、友達とカラオケに来てます。」飯は明日の朝、いだきます。

敏行 みねりちゃん、「めん。今、同僚とビアホール。帰宅は午前零時の予定。

穂香・敏行が去る。

登 カラオケだ?ビアホールだ?いい加減にしろよ、二人とも!
みねり たまたま同時に気晴らしがしたくなつたんじゃない?出来れば、もう少し早く連絡してほしかったけど。

あなたはいつ気晴らしをするんです。

家事に休日はないの。日本のお母さんはみんなそう。

登
みねり

登 そんなの絶対間違ってる！日本のお母さんは叛乱を起し「べきだ！」
みねり 穂香ちゃんはカラオケか。体調、元に戻ったのかな。無理しないといいけど。
登 何言つてるんですか。とっくに治つてたんですよ。心配してやる必要なんか
ないんだ。

登 小山田さん、興奮しすぎ。
みねり えーえー、確かに僕は今、興奮します。でも、その原因は敏行さんや穂香
ちゃんじゃない。あなただ。
私？
登 花巻さん、あなたは間違ってる。今すぐ叛乱を起し「しなさい！」
みねり 叛乱で、そんなオーバーな。

龍平がやつてくる。

龍平 今、叛乱で言つた？
みねり うん、そう。即興演技をしてたら、相手の人が「叛乱を起し「しなさい」」って。
龍平 小山田っていう人？
みねり そう。私、名前を言つた？
登 言いましたよ。「小山田さん、興奮しすぎ」って。
龍平 (みねりに)その人、どういう設定？
みねり そんな」と聞いて、どうするの？
龍平 みねりさんのセリフを聞いて、推理したんだ。だから、当たつてるかどうか、
みねり 知りたくない。
試しに言つてみて。

龍平 その人は男の人で、みねりさんよりちょっと年下で、独身で、まじめで、みねりさんのことが好きで。

登 ブー！はずれ！

龍平 （みねりに）でも、叛乱ていうのがよくわからない。

みねり 私のことが好きな小山田さんはね、

登 好きじゃない！

みねり 黙つて。（龍平に）小山田さんは「いつ言ったの。」の家の家事を私一人でやるのは間違つてる。みんなで分担するべきだつて。

龍平 それが叛乱？

みねり 私も自分が一番やりたいことをやるべきだつて。でも、私には今一つ確信が持てないんだよね。やりたいつて気持ちと同時に、出来るわけないつて気持ちもあつて。

龍平 僕と同じだ。

みねり 同じつて？？

龍平 家から出て好きな所へ行きたいつて気持ちと、出来るわけないつて気持ちがある。

登 僕は答えは明らかだと思うけどね。

龍平 （みねりに）僕はともかく、みねりさんの答えは明らかだと思う。だつて、すぐに実行できるんだから。

みねり そうかな。

龍平 やりたいことがあつて、それが今すぐ実行できるなら、やらない手はない。たまにはいいこといいづじやないか。

登 じや、龍平くんも家事をやってくれる？もちろん、お義兄さんと穂香ちゃん

みねり

登 龍平

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

みねり

登 みねり

登 みねり

登 みねり

龍平

龍平

にもやつてもらつから、四分の一でいい。四日に一度、食事を作つて、洗濯をして、掃除をして、買い物をして。

(龍平に) やるよな?

「めん、すぐには無理。(出でて)」「つとめる」

おい、逃げるのか?

(龍平に)「飯はどうする?

後にする。」「めん。

龍平が去る。

龍平! それがおまえのトゥルースか!

小山田さん、もう何言つてるか、わからない。

花巻さんは彼を許すんですか? 「やりたい」とがつて、それが今すぐ実行できるなら、やらない手はない。「こんな偉そつな」とを言つておいて、自分はやらないやつを。

だつて、無理なものは無理だもの。

やっぱりあなたは叛乱を起すべきだ。今すぐこの家を出るんですよ。

家を出る? 何もそこまでしなくとも。

あなたがここにいたら、どうせすぐに元に戻る。彼らは甘え、あなたは甘やかす。

でも、私はこの歳になるまで、一人暮らしをした」とないんだよ。

あなたなら大丈夫です。

大丈夫じゃない。

登 龍平

登 みねり

やると囁いてください。

言えない。言えるわけがない。

ああ、限界だ。もう我慢の限界だ。うおーっ！

小山田さん、大丈夫？

花巻さん、お願いがあります。

何よ、改まつて。

「やりたい」とがあって、それを今すぐ実行できるなら、やりたい手はない」。
「これは間違いない真実です。今から僕がそれをしてみせます。

どうやって？

だから、やるんですよ。やりたい」とを。

それって、小説を完成させる」と？

昼夜は優のことがあって、あんまり先に進まなかつたけど、もうグダグダ悩
むのは止めだ。絶対に今晚中に完成させます。僕のノートパソコンを用意し
てください。

わかつた。でも、何もそんなに急がなくとも。

いいえ、やります。その代わり、約束してください。僕が小説を完成させたら、あなたもやりたいことをやるつて。
え？ それはちょっと。

四の五の言わずに、準備！

はい！

登
みねり

①誠二郎がやつてくる。

誠二郎●

花巻さんは口述筆記を開始しました。その後、敏行さんと穂香ちゃんが帰つてきましたが、「お帰りなさい」と言うだけで、ノートパソコンを打ち続けました。やがて、外がうつすらと明るくなり始めた頃。

八月七日朝、敏行の家。みねりがノートパソコンを打つていて。横に登が立つていて。

登
みねり
「かすみちゃん、さよなら…さよなら…さよなら…」。

（ノートパソコンを打ちながら）「かすみちゃん、さよなら…さよなら…さよなら…！」で、次は？

登
みねり
終わりです。

（ノートパソコンを打ちながら）「終わりです」。え？

それは打たなくていいんです。わかりませんか？終わったんですよ。僕の最

後の小説が完成したんです。やつた！俺はやり遂げたぞ！

おめでとつ、小山田さん！でも、死ぬほど疲れた。

（ノートパソコンを見て）午前五時五五分。約九時間、ぶつ通しで書きまし

たからね。長時間のお付き合い、ありがとうございました。

みねり
徹夜なんて何年振りだろう。横になつたら、三秒で眠れそう。じゃ、私は寝るね。

登
みねり
え?
登
みねり
僕は約束を果たした。今度はあなたの番です。

みねり
でも、あれはあなたが勝手に言つたことで。

みねり・登が話し合いを始める。

誠二郎 ● 小山田くんの勢いは止まりませんでした。花巻さんを説得して、やりたいことをやると約束させました。三十分後、花巻さんは家族三人を起して、話があると言いました。

敏行・穂香がやつてくる。誠二郎は去る。

穂香
みねりさん、今朝は「飯は作つてないの?
敏行
(みねりに)俺は大丈夫だよ。コンビニでサンドイッチを買うから。
みねり
悪いけど、そうしてくれる?
敏行
で、話っていうのは?
みねり
それは龍平くんが起きてから。

龍平がやつてくる。

登
みねり
来た、来た。（みねりに）全員揃いましたよ。
お義兄さん、龍平くん、穂香ちゃん、朝から

お義兄さん、龍平くん、穂香ちゃん、朝からごめんね。実はみんなに大事な
来た、来た。(みねりに)全員揃いましたよ。

語がある人々

登
みねり
さあ、思い切って、言っちゃいましょう。
(三人に)突然の話で驚くかもしれないけど、驚いてるのは私も同じで、ま

(三人に)突然の話で驚くかもしないけど、驚いてるのさか」「なんことになるとは思つてもいなかつたんだけど、

卷之三

(三人に) 私は今日から一週間以内に、この家を出ます。

三人
穂香
は？

(みねりに)まさか、結婚か?

穂香
みねり
えーっ？みねりさん、そんな人がいたの？名前は？どんな仕事をしてる人？
誤解しないで。私は結婚も同棲もしない。この家を出て、一人暮らしを始め

何のために。

みねり

役者に復帰するため。わかつてん！みんな、今、「何で今更？」つて思つたよね？それは私も同じ。こうして話をしてる今も、まだ迷いがある。

でも、約束ですよ。

みねり

（三人に）でも、約束したの。ある人と、自分の「一番やりたい」とをやるつて。昨夜、龍平くんも言ったよね？「やりたい」とがつて、それが今すぐ実行できるなら、やらない手はない」とつて。

龍平

みねり

賛成してくれる？

するよ。もちろん。

龍平
穂香

(みねりに)私も賛成。私に手伝えることがあつたら、何でもする。お父さんは?

敏行

俺も同じだ。(みねりに)あきのが死んでから、みねりちゃんはずつとこの家を支えてくれた。十二年もだ。これからは自分のことを優先してほしい。ありがとう、お義兄さん、ありがとう、みんな。

さあ、問題はここからです。

みねり

(三人に)で、みんなに質問があるんだけど、私がこの家からいなくなったら、家事はどうする?

三人

みねり
三人でやるしかないよね?出来る?

穂香

えー?私は無理。起きてる時間は全部、勉強に当てないと。俺も出張や残業を断るわけには行かないしな。

敏行

俺も、やるしかないんだよ。僕ら三人で。

龍平

偉そうな口を叩くな。引き一もりのおまえに何が出来る。

敏行

わからないよ。でも、僕には言えないよ。「みのりさん、僕たち、家事は無理だから、復帰は諦めて」なんて。

龍平

(龍平に)そうだな。

登
敏行
穂香

話し合おう。これから三人でどうするか。

②敏行・龍平・穂香が去る。誠二郎がやつてくる。

誠二郎 ● 三人はラインで家族会議をしようと約束して、解散しました。花巻さんは小山田くんの小説を徳丸書店の岩根さんにメールで送付。そして、徳丸書店に向かいました。

②八月七日朝、徳丸書店。麻衣子がやつてくる。誠二郎は去る。

みねり

麻衣子

岩根さん、小山田さんの小説は読んでいただけましたか？

最初の方だけ。もつとじっくり読もうと思つて、今、富守さんにプリンターウトしてもらつてます。でも、まさか小山田くんが小説を書いていたなんて。私たちの前ではそんなこと、一言も言つてなかつたのに。

登

麻衣子

（みねりに）あれは本当に小山田くんが書いたものなんですか？

間違いありません。小山田さんは亡くなる前に書いてたんです。高校生の頃から作家になりたかったって。

麻衣子
みねり・登

そんな秘密を打ち明けられていたなんて。やっぱりあなたは。

違います！

麻衣子

そんな大声を出さなくでも。

みねり

それで、一昨日、小山田さんのお宅へ行つて、彼のノート・パソコンを譲つていただいて。

麻衣子

ああ、あなたが持つてたやつですね？

みねり

そうです。で、中身を調べてみたら、あの小説が。

弓奈がやつてくる。紙の束を持つている。

弓奈 お待たせしました。（麻衣子に紙の束を差し出す）

お待たせしました。（麻衣子に紙の束を差し出す）（受け取つて）ありがとう。長さはどれくらい？

四〇〇字詰原稿用紙に換算すると、約六〇〇枚です。

力作ね。東野圭吾さんの『容疑者Xの献身』がちょうどそれくらいだったと

思
う。

あんな偉い人と比べないでください。

（みねりに）で「これもひとつかふ。

までは話へてくれない。それでもし本にて伯伯があると思つたが、

残念ですが、それは不可能です。

なぜですか？

麻衣子 作家さんが書いた小説をそのまま出版するといつては、常識的に入りえ

作家さんが書いた小説をそのまま出版するといつ」とは、常識的でありえ
いからです。どんなに有名な作家さんでも、編集者が読んで、気付いた点を
お伝えして、書き直しをお願いしています。でも、小山田くんにはそれが出
来ない。

死んでまずからね。

（みねりに）そんな不完全な作品を、我が社から出版するわけには行きません！

書画、映画

みねり　書き直しは私かやります
麻衣子　あなたが?

（登に）やれるよ
あかなか

さあ、私に聞かれても。

登

麻衣子

みねり

麻衣子

みねり

麻衣子

登

みねり

麻衣子

みねり

麻衣子

みねり

麻衣子

登

みねり

麻衣子

みねり

弓奈

みねり

弓奈

みねり

麻衣子

みねり

麻衣子

みねり

麻衣子

みねり

麻衣子

みねり

麻衣子が去る。誠一郎がやつてくる。

(みねりに)やりますよ。岩根さんが出版に「ゴーサイン」を出すまで。

(みねりに)失礼ですけど、あなたも作家志望?

いいえ。でも、私は小山田さんの友達です。小山田さんの気持ちは誰よりもわかる。私には、小山田さんの声が今も耳元で聞こえるんです。また、オーバーなことを。

事実なんですよ、これが。

(麻衣子に)とにかく一度読んでください。書き直しについてはその後で。わかりました。これは小山田くんが「の世に遺した形見みたいなものですか

らね。心して読ませてもらいます。

ありがとうございます。

よしつー。

(麻衣子に)私も後で読んでいいですか?

もちろんよ。一人で「の原稿、真っ赤っ赤にしてやりましょう。

楽しみです。小山田さんが作った物語が読めるなんて。

宮守さん、良かつたら、また一緒に食事に行きませんか?

まだお昼まで時間がありますけど。

キリがいいから、今日は早めにしましょう。小山田くんがよく行つたとんかつ屋さんはどう?

出来れば、また二人だけで。

あ、やつぱりお呼びでない?じゃ、私は早速「れを読みます。

誠二郎 ●

花巻さんは宮守さんと「ちょっと遠くの店に行きました」と囁きました。

小山田くんが「どうへ行くつもりですか」と聞くと、ニシハツ笑って、「

「うなつたら、やれる」とは全部やつかやおうー」。

③八月七日昼、登の家。みねり・登・弓奈・優がやつてくる。優はシェフの服装。誠二郎は去る。

優
みねり
(みねりに)何々?今日は食事に来たんじゃないの?
食事はします。でも、その前に話したいことがある。

優
みねり
えーっ?今、ランチタイムで忙しいんだけどな。

優
弓奈
せつかく宮守さんにも来てもらつたんだから、五分だけ時間をください。

弓奈が頼んだの?

違つ。私も強引に連れて「られたの」「ちょっと遠く」が西葛西だなんて、
思つてもいなかつた。

岩根さんには言わねえ方がいいね。」めん、親父ギヤグだった。

登
みねり
(弓奈に)いいから、私の話を聞いて。あなたたちには話してなかつたけど、
私は小山田さんから聞いてたの。あなたたちの結婚のこと。まるで自分のこと
とのように喜んでた。

優
みねり
知つてますよ。俺たちが揉めるたびに仲裁してくれたし。
じゃ、もし「」に小山田さんがいて、あなたたちが結婚式を延期しう
としてるつて聞いたら、何て言つと思う?
(弓奈に)どう?

優
弓奈
(みねりに)私の気持ちを知つたら、賛成してくれるんじゃないかと。

登
しないよ、賛成なんか！

(弓奈に)しないよ、賛成なんかー

え？

小山田さんなら、やつぱりと感う。それから。

それから?

みねり
周囲を伺つて)それから?

(マ奈) 富守さんがためらう気持ちわかる。でも、それはよくあるマリ

ツジブルーだと思う。

みねり
富守さんがためらう気持ちはわかる。でも、それはよくあるマリッジブルー
だと思つ。

そんな使い古された言葉で片付けないでください。私だってよく考えたんだ
よ。

。アリサ。アリサ。アリサ。

僕はそんなことはさせんよ。

(みねりこ)ダメつて可が?

だから、考える」と。

澄子がやつてくる。ジーフの服装をしている。

澄子 優、私一人じゃ手が足りないよ。厨房に戻りな。

みねり
すぐに済むから、ちょっと待つって。いい、宮守さん？行動を起^くす前に渝

静に考える。「これって、一見正しい気がするよね？私もずっとそうだったた
でも、その時、実は私は冷静じやなかつた。気が小さいから、悪い方へ悪い

方へと考えが進んだ。で、結局、行動を起さなかつた。気付いた時にはアラ
フオーよ。

花巻さん、自虐になつてますよ。

（弓奈に）この人と二人で生きていい。そう思つたから結婚するつて決め
たんでしょう？ だったらその次にやるべきことは、ためらうことじやない。
実行すること。石にかじりついてでも実行するの。

俺は最初からそのつもりだつたけど。
だつたら、元カノと出かけるな！

（優）元カノと出かけてもいい。でも、その時は宮守さんも連れていくの。

え？ 私は。
（優）え？ 私は。

住む世界が違う？ そんなの、生まれも育ちも違うんだから、当たり前じやな
い。二つの世界を一つにしていく。それが結婚でもんでしょう？ まあ、そつ
言う私はいまだに独身だけどや。

（拍手して）ブラボー！

ばあちゃん、まだいたのかよ。

いやあ、大した演説だ。登が生きてたら、きつと同じことを囁つたよ。

（周囲を伺つて）そう？

いいえ、あなたにはかないません。

優・澄子・弓奈が去る。

①誠二郎がやつてくる。

誠二郎 ● その後、花巻さんは一階のイタリアンレストランでランチを、「馳走になりました。で、電車に乗って、西へ。新宿駅で宮守さんと別れて、西新宿へ向かいました。

八月十日昼、誠二郎の家。みねり・登がやつてくる。

みねり 「めんね、いきなり押しかけてきて。執筆中だったんじゃない?

誠二郎 いや、新作の参考になるかと思つて、映画を見てた。それより、僕の住所、誰から聞いたの? 小山田くん?

みねり そう。

登 (誠二郎に)すみません、勝手な」とをして。その上、道案内までしちゃいました。

みねり (誠二郎に)今日、「」に来たのは、平倉くんに頼みたい」とがあるからなんだ。

誠二郎 もしかして、役者に復帰する気になつた?

みねり そうなの。私もあれからいろいろ考えて、復帰するなら今しかないと思つて。

で、成島さんに伝えてほしいの。私が会いたいって言つてゐるつて。

誠二郎 みねり 会見をセッティングしろって言つんだね？ お安い御用だよ。。

みんな辞め方しかやつたし、十一年も経つちやつたし、だから、断られたのは覚悟の上。それでも、会つて、あの時のことを謝つて、「もう一度やります」てください」と言つてしまつ。

成島さん、きつと喜ぶと思つよ。

誠二郎 みねり そうかな。

間違いないよ。花巻さん、今だつて綺麗だし、体型も維持してゐるし、ダンスと発声練習も続けるんだろう？ すぐに舞台に立てるよ。

みねり どうして知つてゐる？ ダンスと発声練習を続けてゐること。

誠二郎・登 え？

誠二郎 (みねりに) 昨日会つた時、言つてたじやないか。

(みねりに)えーえー、確かに言つてました。

そうだったかな。

とにかく、君の気持ちはわかつた。僕に出来ることは何だつてするよ。君に復帰を勧めたのは僕なんだから。

みねり ありがと。平倉くんには本当に感謝してゐる。あと、小山田くんにも。

誠二郎 小山田くんにも何か言われたの？

うん。

何で？

平倉くん、驚かないで聞いてくれる？

まさか、話すんですか、僕のこと？

(誠二郎に) 私には小山田さんの声が聞こえるの。三日前から。

誠二郎 みねり

登 みねり

誠二郎 みねり

登

みねり

何でバカな」とを。信じてもらえるわけないのに。

(誠二郎に)幻聴だつて、思うでしょ?でも、違うの。姿は見えないけど、小山田さんは今もここにいる。本人は幽霊だつて言つてゐるけど。

誠二郎

花巻さん、それ、本氣で言つてる?

ほら、やっぱり正氣を疑われた。

登

みねり

「ほら、やっぱり正氣を疑われた」って小山田さんが言つた。

登

みねり

無駄ですよ。平倉さんが信じるわけない。

登

みねり

「無駄ですよ。平倉さんが信じるわけない」って小山田さんが言つた。

登

みねり

いちいち報告しないでください。

登

みねり

わかった、わかった。

会話も出来るの?

この三日間、ずっと会話してきた。その中で、小山田さんが言つたの。「や
りたい」とがつて、それを今すぐ実行できるなら、やらない手はない」つ
て。

登

みねり

最初に言つたのは、龍平くんですけどね。

登

みねり

今、その名前を出しても、わからないでしょ? う?

登

みねり

本当に会話してるように見える。

登

みねり

小山田さんはそれを証明して見せた。書きかけだった小説を完成させたの。

登

みねり

だから、私も役者に復帰しようつて決心したの。

登

みねり

花巻さん、ちょっと待つて。

登

みねり

何よ。やっぱり信じてくれないの?

登

みねり

それは無理だよ。僕には何も聞こえないんだから。

それが普通の反応ですよ。

誠二郎

(みねりに)小山田くんは君の身代わりになつて死んだ。君は彼の死に強い罪悪感を抱いてる。それが声になつて聞こえるんだよ。

違う。そうじゃないの。

でも、彼の死については、僕にも責任があるんだ。

え? あなたも言つちやうんですか?

(誠二郎に)どう、うつ」と、

小山田くんは君の調査をしてたんだ。

調査? どうして?

誠二郎
成島さんから電話をもらつたんだ。「花巻は今、どうしてる?」つて。来年の公演のキャスティングをしてて、ヒロイン役が出来る女優が劇団内にいな

くて、それで花巻さんのことを思い出したんだつて。僕は何が何でも君にや

つてほしいと思つた。

だつたら、すぐに連絡してくれればよかつたのに。

そうしたら、君は引き受けてくれた?

間違ひなく断つたと思う。

僕にはそこまでの確信はなかつたけど、相当慎重にやらないと難しいと思つた。いきなり依頼するより、今の花巻さんの状況を調べた方がいいつて。すると、たまたまその時、家に来ていた小山田くんが「僕が調べてみましようか?」って。

(みねりに)だつて、興味があつたんですよ。あなたの話は平倉さんから何度も聞かされてんです。今でも忘れられない人だつて。

えーつ!

彼は会社を休んで、君の身辺調査をしてくれた。事故の話を聞いた時は、ビ

誠二郎

みねり

登

誠二郎

みねり

ツクリしたよ。

(みねりに)僕はあなたを尾行してたんです。本当に「めんなさい。

尾行?

でも、そのおかげであなたを助けることが出来たわけですか、さ。

「という」とは、私のことは全部知つてたのね?お義兄さんの家で家事をして

る」とも、ジムでインストラクターをしてる」とも、多摩川の川原で发声練

習をしてる」とも。

登
みねり
すみませんでした。今まで黙つて。

つまり、全部、仕組まれてたってこと?あなたは私を役者に復帰させようとした。私はそれに乗せられただけだった。

誠二郎
花巻さん、落ち着いて。今、君の耳に聞こえてるのは、君が作り出した幻聴なんだ。

みねり
バカ!何でバカなんだろう。

登
みねり
いくらでも罵つてください。悪いのは僕です。

違う。バカは私。調子に乗つて、その気になつた私!

②みねりが去る。後を追つて、登が去る。

誠二郎● 花巻さんが出ていった後、僕は彼女が言つたことをもう一度思い出しました。

そして、ある言葉に引っかかりました。「小山田さんはそれを証明して見せた。書きかけだった小説を完成させたの」。小山田くんが小説を?

八月七日夕、多摩川の川原。みねりがやつてくる。階段に座る。登がやつてくる。誠二

郎は去る。

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』は読みましたか？

登
みねり

登
みねり

ケンタウルスの星祭りの夜、カムパネルラは何人かの友達と小船に乗つて、川に出た。その時、友達のザネリが川に落ちた。カムパネルラをすぐに川に飛び込んで、ザネリを助けた。が、彼自身は命を落としてしまう。

登
みねり

登
みねり

最初に読んだ時、思いましたよ。カムパネルラは可哀想だ。せつかくザネリを助けたのに、死んでしまうなんて。それに引き換え、ザネリは助けてもらつたのに、何の恩返しもしてない。ザネリは狡いつて。でもね、ある時、気が付いたんです。カムパネルラから見ると、ちょっと違つかもしれないって。確かに彼は死んだかもしれない。でも、天国までの長い旅を、大好きなジョバンニと一緒に過ごすことが出来た。一人にはならなかつた。

登
みねり

登
みねり

最初はザネリ、でも、今はジョバンニですよ。

でも、あなたはカムパネルラじゃない。カムパネルラは尾行なんかしない。そのことについては本当にお詫びします。アラフオーレとは言え、独身の女性の後をつけ回すなんて、一步間違えたらストーカーです。本当に申し訳ありませんでした。

「アラフオーレ」が余計。

すみません。それから、平倉さんのこととも許してあげてください。あなたを調査しようつて言い出したのは僕なんだから。

登
みねり

みねり

登

でも、彼も賛成したんだよね？

すべてはあなたを思つてのことです。平倉さんはあなたのことが好きなんですよ。

みねり

登

何それ？私はただのおばさんだよ。

そんなことはない。あなたはとても素敵な人です。この四日間で、平倉さんが長年思い続けてきた理由がよくわかった。

おだてても無駄。本当は自分の狙い通りになつて、「やつたぜ」と思つてるくせに。

登

みねり

それは違います。

違わない。まんまとあなたに乗せられて、役者に復帰する気になつた。本当にバカだよね。冷静に考えたら、無理に決まつてるの。

それ、矛盾してませんか？

登

みねり

何よ、矛盾で。

あなたは富守さんについていたじゃないですか。「」の人と一緒に生きていこう。そう思つたから結婚するつて決めたんでしょう？だったらその次にやるべきことは、ためらつ」とじゃない。実行する」と。

うわあ、そんな偉そうなこと、よく口に出来たな。

ええ、僕もちょっとそういう思いもした。でも、あなたは間違つてない。今は冷静に考える時じやない。踏み出す時なんです。

でもなあ。

心配しないで。困つた時には、僕がアドバイスしますから。

え？あなた、これからもずっと私のそばにいるつもり？

いや、とりあえず、お迎えが来るまでは。

登

みねり

登

みねり

登

みねり

登

みねり

登

みねり

あきのがやつてくる。

あきの 来ましたよ。

みねり・登 え?

あきの 小山田登さんですよね? あなたは三日前に亡くなつた。本来ならば、その瞬間にこの世を去るはずだつた。死者がこの世に残ることは許されません。さ

あ、私と一緒に行きましょう。

みねり (周囲を伺つて) 誰?

みねりさんにはこの人が見えないんですか?

小山田さんには見えるの?

ええ。この人にも僕が見えてるみたいですね。(あきの) もしかして、天使?

いいえ。私はあなたと同じ存在。

幽霊?

違います。魂です。あなたを迎えて行くように、天から遣わされたんです。つまり、天国からの使者つてことですね? それならやつぱり天使だ。

あきの いいえ、私は人間の魂。元々は普通の人間です。あなたはみねりの命を救つてくれた。だから、私が遣わされたんです。

みねり 今、みねりって言つた?

ええ、確かに。

嘘。嘘でしよう?

どうしました、みねりさん?

まさか、まさか、お姉ちゃん?

みねり 登 登 登 登

あきの
氣付くのが遅い。まあ、十二年ぶりだし、声だけだもんね。仕方ないか。

本当に本当にお姉ちゃん？

あきの
そうよ。何を言えば、信じてもらえる?みねりの好きな食べ物はたまごサン

ドとナ。ボリタン。嫌いな食べ物は。パクチーとビジょう鍋。

みねり
パクチーは食べられるようになつたよ。五年くらい前に、タイ料理にハマつ

て。

あきの
あのみねりがもうアラフオーか。

今、お姉ちゃんが亡くなつた時と同じ歳。どうどう遡いついちやつた。

ありがとね。うちの旦那と子供たちの面倒を見

お礼なんか言わなくていい。私も楽しかった

でも、同じく、辛い想いもした

本当にそんなことなし信じてよ

れかでか
信じる
でも これからはあなたのやいがいことをやめて
私の

二二

み
ね
り

みねり・登・あきのが去る。

①誠二郎がやつてくる。

誠二郎● 小山田くんはあきのさんと共に旅立つていきました。姿が見えないので、手を振る」とも、見送るも出来ませんでした。花巻さんはしばらく多摩川の流れをボーっと眺めて、家に帰りました。

八月七日夜、敏行の家。みねり・敏行がやつてくる。敏行はエプロンをして、本を持っていて。誠二郎は去る。

みねり お義兄さん、そのエプロンは何？

敏行 いや、龍平と穂香と話し合って、今日の夕食の当番は俺つてことになつて。嘘。料理なんて、結婚してからずっとやつてでしょう？

みねり 敏行 ああ。だから、今日は会社を定時で退社して、途中でこの本を買って。（本

を差し出す）

みねり 敏行 （本を受け取つて）「男のええ加減料理60歳からの超入門書」？（本を取り返して）「れなら、俺でも何とかなるんじゃないかと。

穂香がやつてくる。買い物袋を持つている。

穂香
みねり

あ、みねりさん、お帰り。
穂香ちゃん、もしかして、買い物をしてきたの？

穂香
みねり

今日の買い物当番なんですね。

穂香
みねり

冷蔵庫は確認した？

穂香
みねり

もちろんしたよ。でも、お父さんがメニューを決めてくれないから、とりあえず、今ないものと、もうすぐなくなりそうなものを買ってきた。（敏行に）

で、決まったの？

（本を差し出して）「一ややチャンプルーはいいだ？

（ゴーヤがない。どうして思い付いた時にラインしないのよ。

龍平がやつてくる。洗濯物を持ってくる。

敏行
みねり

おお、もう乾いてたか？

穂香
みねり

龍平くんは洗濯当番？

お兄ちゃんは洗濯専任。買い物に行けないし、ずっと家にいるから、雨が降つた時にすぐに取り込めるでしょう。

（みねりに）洗濯機があるから楽かと思つたけど、干したり取り込んだりが大変だね。

違うぞ、龍平。畳んだりアイロンがけしたりして、タンスやクローゼットに仕舞うまでが洗濯なんだ。

お父さん、やつたことないくせに。

（敏行に）アイロンも？

穂香
龍平

敏行

穂香

みねり

すぐに慣れるよ。頑張つて。

穂香

(振り返つて)あ、誰か来たみたい。私、見てくるね。

穂香が去る。

みねり

お義兄さん、私にも何かやらせてよ。まだしばらくは「の家にいるんだから。

敏行

じゃ、夕食の。

敏行

父さん、決めただろう。

龍平

違う違う。もちろん、夕食は俺が作る。でも、久しぶりだから、いろいろ間違えるに決まってる。だから、そばで見てて、注意してもらおうんだ。

みねり

わかった。でも、明日からは私も何かの当番にして。

穂香・誠二郎がやつてくる。

穂香

みねりさん、お客様。

誠二郎

お邪魔します。

みねり

平倉くん、どうしたの、急に。

誠二郎

「めんね。どうしても君と話がしたくて。

みねり

あ、みんな、紹介するね。この人は私の劇団時代の友達で、平倉誠二郎くん。今は小説家で、結構有名なんだよ。

(穂香に)知ってるか?

私、小説は読まない。

右に同じ。

穂香

敏行

龍平

誠二郎 この反応はいつものことだけど、ちょっと寂しいです。

みねり で、私に話って何？

誠二郎 昼間、家に来た時、君はこう言つたよね？「小山田さんはそれを証明して見せた。書きかけだった小説を完成させたの」って。

みねり そうだったかな。

氣になつて、徳丸書店の岩根さんにメールしてみたら、今朝、君が来て、「小山田くんの小説を出版してくれ」って言つたって。で、「僕にも読ませてほしい」ってお願いしたら、すぐに送つてくれた。

みねり じゃ、読んだの？

誠二郎 読んだよ、一気にラストまで。信じられないほどおもしろかつた。あれって、小山田くんが書いたものに間違いないんだよね？

龍平 小山田、小山田、小山田！

穂香 何よ、いきなり大声を出して。

みねりさん 小山田さんて、実在するの？

龍平 おまえは横から口を出すな。

でも、僕は知つてるんだ。最近、みねりさんが一人でいる時、即興演技をするようになつて、その時の相手の名前が小山田で。

穂香 お兄ちゃん、全然意味がわからない。

誠二郎 僕にはわかつた。（みねりに）君がしていたのは即興演技じゃない。小山田くんと会話してたんだ。そうだろう？

みねり 実はそう。

穂香 誰なんだ、小山田つて。

みねり ちよつと待つて。みねりさんの事故の時、亡くなつたのが確か。

穂香 敏行

龍平 敏行

穂香 誠二郎

みねり 穂香

みねり
敏行
誠二郎
みねりちゃん、冗談だよな？

いや、事実です。そうでなければ、小山田くんが小説を書いてた」とを、花巻さんが知るはずがない。（みねりに）小山田くんに頼まれたんだろう？ 小説を完成させてほしいって。

そう。やつと信じてくれたね。

じゃ、小山田くんは今もここにいるの？

それがいないの。ついさっき、あの世に行っちゃった。
なぜだ。大事な話があったのに。

登がやつてくる。。

大事な話つて？

その声は小山田さん？あの世に行つたんじゃなかつたの？

あきのさんに頼んで、一分だけ、戻らせてもらつたんですよ。

花巻さん、小山田くんが戻ってきたの？

うん。でも、ここにいられるのは一分だけだつて。

わかつた。小山田くん、君の小説、おもしろかつた。ぜひ出版すべきだと思った。でも、あのままつてわけには行かない。いくつか直さなきやいけない所がある。で、その書き直しなんだけど、僕にやらせてもらえないだろうか。平倉くんが？

（誠二郎に）ひょっとして、若根さんが条件を出したんですか？平倉さんがやるなら出版してもいいと。

登 みねり
誠二郎 みねり
誠二郎 みねり
誠二郎 みねり
みねり

みねり

(誠二郎に)ひょっとして、岩根さんが条件を出したんですか? 平倉さんが
やるなら出版してもいいと。

誠二郎

実はそうなんだ。でも、君と僕の共作にするつて案は断つた。作者はあくま
でも君だ。どうだろう? 僕が書き直しをしてもいいかい?

登

いいに決まりますよ。全部あなたにお任せします。

登

(誠二郎に)いいに決まりますよ。全部あなたにお任せします。

登

僕の本が出せるんですね。平倉さん、本当にありがとうございます。

登

(誠二郎に)僕の本が出せるんですね。平倉さん、本当にありがとうございます。
ます。小山田さん、あと十秒しかない!

登

みねりさん、ありがとう。どうか平倉さんとしあわ。

登が去る。

誠二郎

花巻さん、小山田くんは?

誠二郎

声が聞こえなくなった。もう行っちゃつたんだと思う。

誠二郎

彼は最後に何て言ったの?

みねり

さあ。途中までだつたんで、よくわからない。

みねり

みねりちゃん、感動したよ。凄い演技だつた。

敏行

お父さん、違う。今のは演技じゃなくて、たぶんリアル。

穂香

リアル? そんなことがあるわけないだろ。亡くなつた人の声が聞こえるなん
て。

穂香

それは私もそう思つけど。

(みねりに)小山田さんはずっとみねりさんのそばにいたの?

龍平

みねり うん。大抵、私のナナメウシロに。

穂香 うわー、まるで背後霊みたい。

みねり 背後霊は見守るだけでしょ? でも、あの人はずっとしゃべっていた。あなたたちの悪口もいっぽい言つてた。

穂香 何で、何で?

みねり 私もさんざん嫌味を言われた。本当に腹が立つた。でも、「うして聞こえなくなると、何だかちょっと寂しい気がしてきた。変だよね。役者に復帰するつて決めたのも、小山田くんに励まされたからなんだろう? いけない。お礼を言つの、忘れてた。小山田さん、ありがとう! ありがとう!

② 誠二郎 ●

誠二郎 こうして小山田くんはこの世を去りました。僕は花巻さんから詳しい話を聞きました。「の四日間に何かあつたか。小山田くんは何をしたのか。そして、決心したのです。彼のことを小説にしよう」と。

八月十七日夜、誠二郎の家。優・澄子・麻衣子・弓奈がやつてくる。

誠二郎 以上が、僕がこれから書く新作のあらすじです。

優 長かった! 二時間近くかかりましたよ。

誠二郎 すみません。なるべく正確にと思つたんで。

優 ばあちゃん、起きてるか?

澄子 ああ、夕飯はサツポロ一番でいいよ。

優 (誠二郎に)すみません。もう一度最初から話してもらえますか? いや、冗

談ですよ。

麻衣子

誠二郎

話を元に戻しましょう。平倉さん。

(他の五人に)お聞きのように、今回の小説には皆さん登場します。もちろん、皆さんの名前は変えますし、住所とか職業とか、個人情報に関する」とはすべて別のものにします。が、皆さん知り合いが読んで、「これって○○さんじゃない?」と気付く可能性がゼロとは言えません。

(他の五人に)皆さんだって、「俺はこんな」と書いてないとか「私は」

んな人間じゃないとか、文句を付けたくなるかもしません。

お父さん、言いそう。

言わない。どうせ読まないからな。

そう言わずに読んでください。完成したら、お送りしますから。

僕、読みます。あ、(誠二郎に)ぜひ読ませてください。

ありがとう、龍平くん。(他の五人に)僕は小山田くんの「」とが書きたい。

小山田くんが言つたこと、したことを残したい。作家になつて、これほど強い衝動を感じたのは初めてです。どうか皆さん許可をください。

題名はもう考へてあるの?

みねり
誠二郎
もちろん。僕が考へた題名は。

誠二郎がタイトルを口にする。他の七人が口々に意見を言い始める。

＜幕＞